

# 第5章

## 地域別構想

地域別構想とは.....	63
1 六地蔵地域.....	67
2 黄檗地域.....	75
3 宇治地域.....	85
4 槇島地域.....	95
5 小倉地域.....	103
6 大久保地域.....	111
7 山間地域.....	119





# 第5章 地域別構想

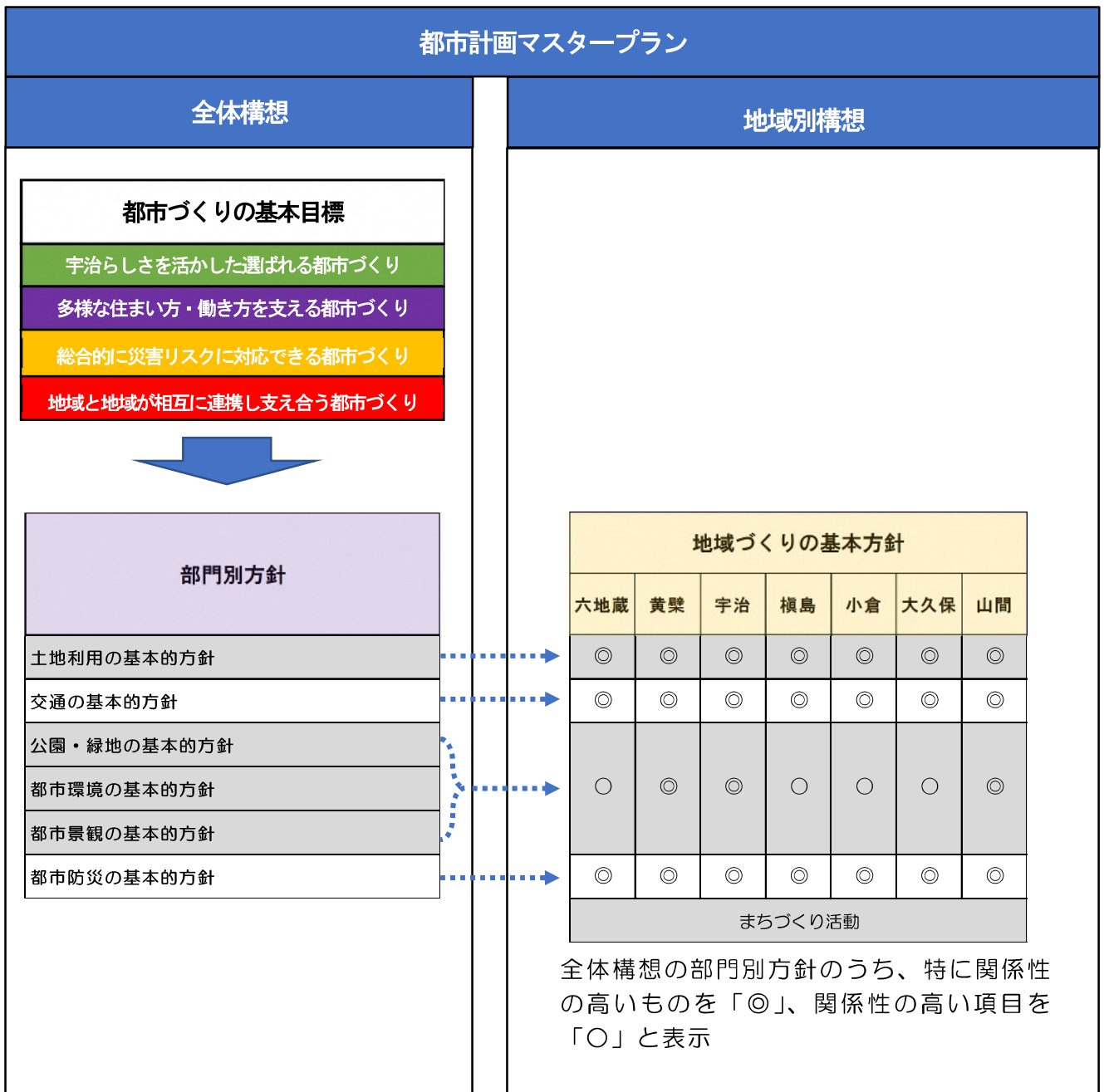
## 地域別構想とは

### ■ 地域別構想の位置づけ

全体構想は、宇治市全域を対象として、都市のあるべき姿を示したものです。市民の立場から見ると、自分の住む地域の具体的な姿が分かりにくい面があります。

そのため、この地域別構想は、市民の生活圏に合わせた地域に分割し、今後のまちづくりに必要な方策を盛り込んだ地域ビジョン（市民と行政がパートナーシップによるまちづくりを進めていくための基礎的な資料）として位置づけます。

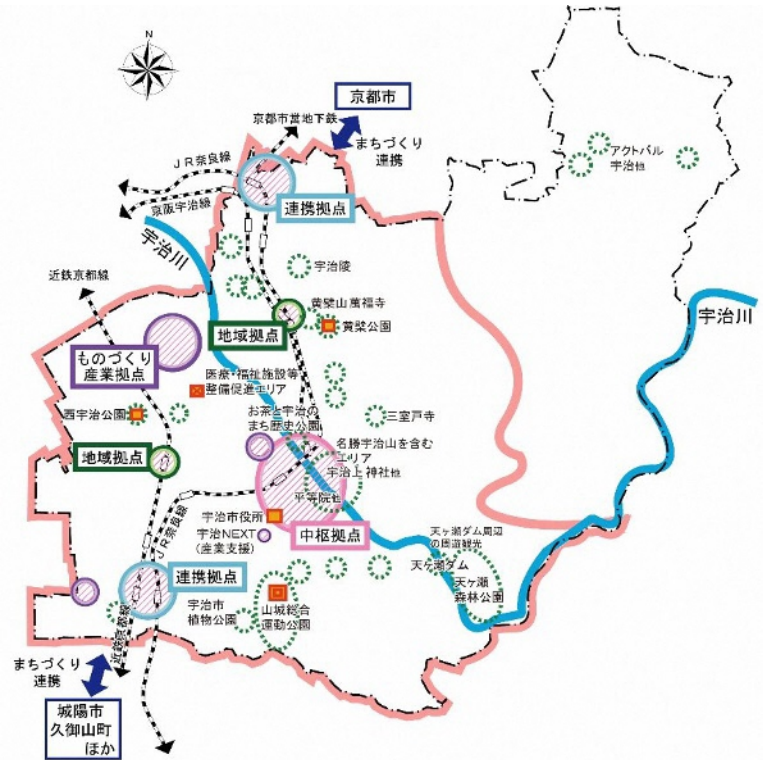
### ■ 全体構想と地域別構想の関係性



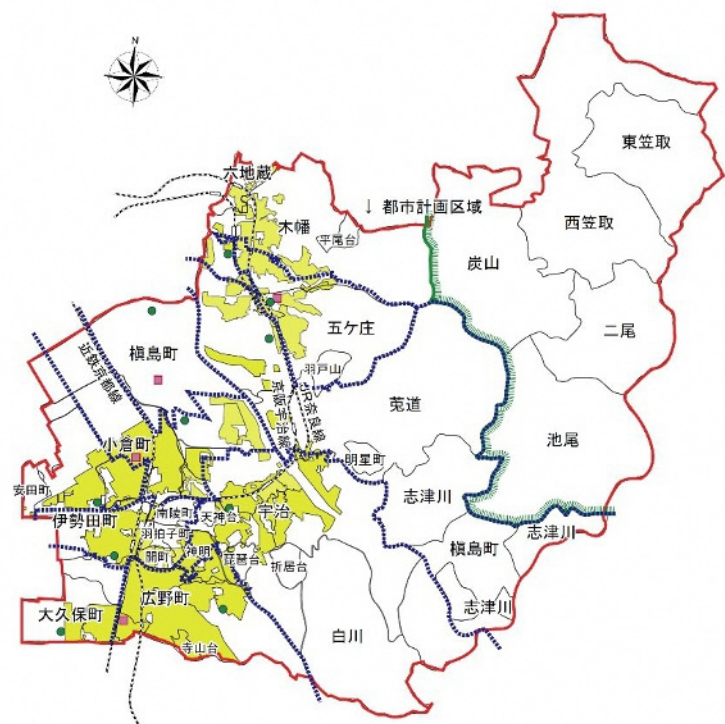
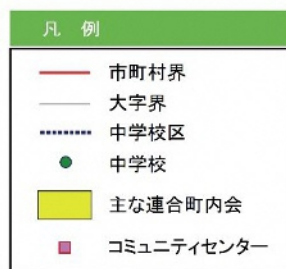
## ■地域区分について

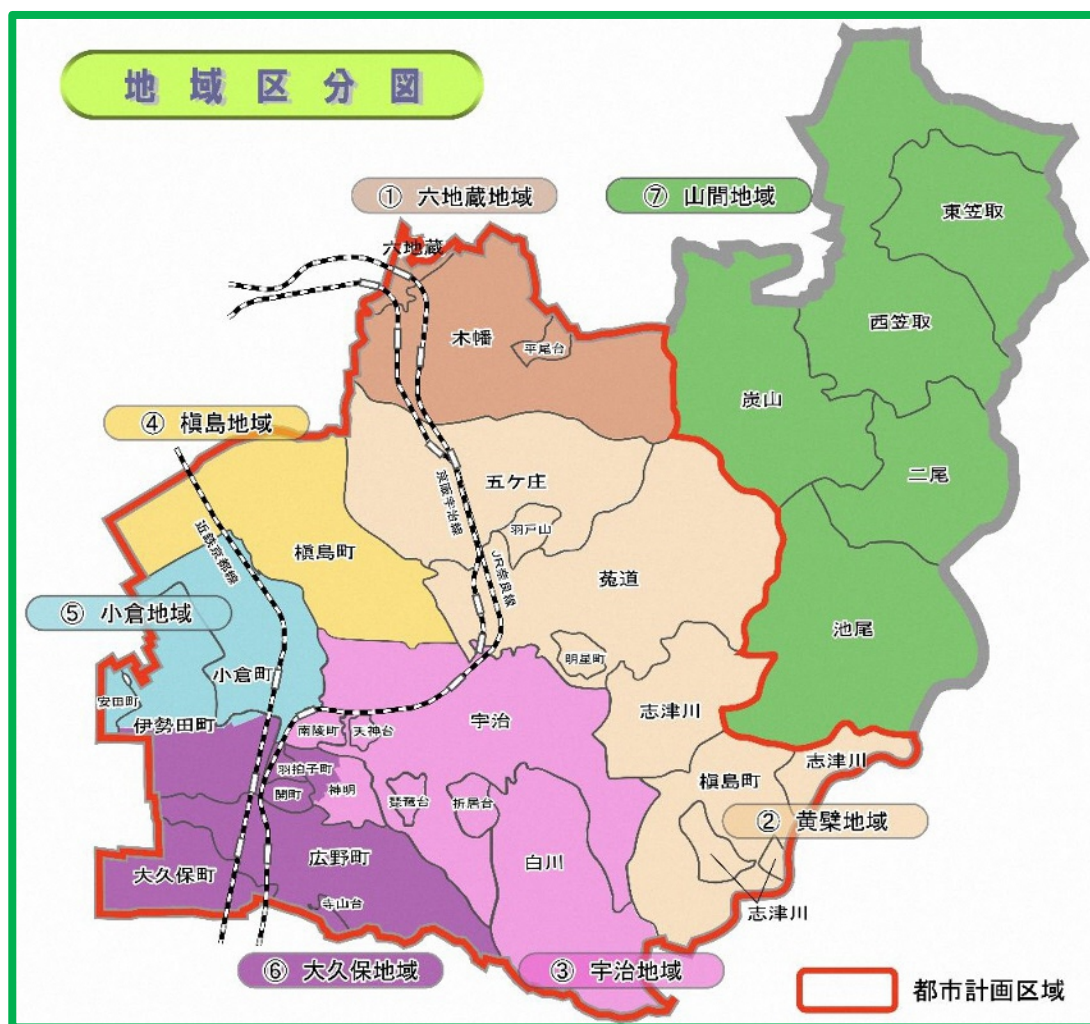
地域区分は、次の事柄を踏まえながら設定しました。

- ①「将来都市構造図」で示す「中枢拠点」のある「宇治地域」、「連携拠点」のある「六地蔵地域」・「大久保地域」、「地域拠点」のある「黄檗地域」・「小倉地域」、「ものづくり産業拠点」のある「槇島地域」を中心に、地域を区分しました。



- ②宇治市のコミュニティの単位として設定した「中学校区」を考慮しました。
- ③自分の住んでいる場所がどこの地域に当てはまるのか理解しやすいように、住所の大きなくくりである「大字界」を考慮しました。
- ④町内会などの連合単位や都市計画上の大きな位置づけである「都市計画区域」の境界も考慮しました。





### ■地域別構想の策定過程

市民のみなさんとともに考え策定した既存の地域別構想を活かし、まちづくりオープンハウスや意見交換会で市民のみなさんと一緒に地域レベルのこれからのまちづくりを考えながら新たな「地域別構想」を策定しました。

地域のみなさんと一緒に考え、より良い計画を策定するため、各地域を対象として市内10会場でまちづくりオープンハウスと意見交換会を開催しました。オープンハウスでは、開催時間内に自由にご来場頂き、説明パネル等の展示とあわせ、市の職員がまちづくりの取り組み状況などについて情報提供や説明をしながら、これからのまちづくりについて話し合いました。まちづくりオープンハウスと意見交換会を通じて、地域ごとの課題やこれからのまちづくりについて一緒になって考え、その成果を活かしながら「地域別構想」を策定しました。

オープンハウスの様子



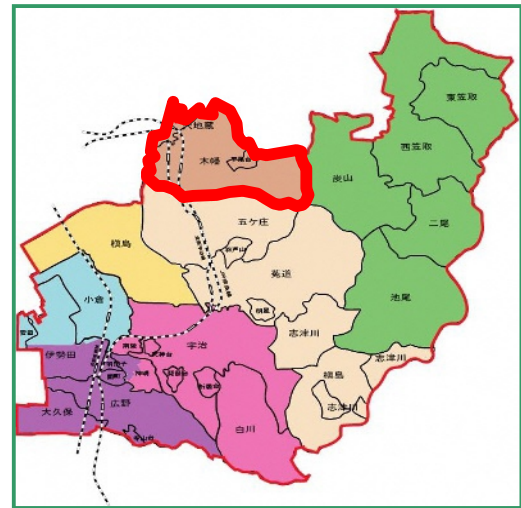
意見交換会の様子





# 1 六地蔵地域

(六地蔵・木幡・平尾台)



## (1) 地域の特徴

### 六地蔵エリア

- 宇治市の北端に位置し、JR 奈良線や京阪宇治線、京都市営地下鉄の鉄道ネットワーク、主要地方道 大津宇治線や主要地方道京都宇治線など、本市の主要道路が集中しており、利便性の高い地域です。
- 多様な交通ネットワークを活かし、京都市域と一体となった快適でにぎわいや活力ある都市空間が形成されている地域です。



### 木幡エリア

- JR 木幡駅・京阪木幡駅を中心とした住宅地と周辺の山間部を有する地域です。
- 木幡池、松殿山荘や宇治陵など水とみどり豊かで身近な自然に囲まれた地域です。
- 許波多神社や茶畑など地域特有の文化、歴史遺産に囲まれた落ち着いたある居住環境が形成されている地域です。



はじめに

宇治市の現状と課題

都市づくりの基本理念と基本目標

部門別方針

地域別構想

参考資料

## (2) 地域の現状

<p>土地利用</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ JR 六地蔵駅周辺では、市民ニーズの変化などから大型商業施設やホテルなどが撤退しました。</li> <li>○ 主要地方道京都宇治線より東側は、主として住宅地が中心であり、地域の約 6 割を占めています。</li> </ul>
<p>交通</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 府道京都宇治線や京都市道外環状線では、朝夕の渋滞が続いており、地域内の道幅が狭い生活道路には、車の流入が多くなっています。</li> <li>○ 北の玄関口としてふさわしい幹線道路（主要地方道大津宇治線、サポート道路）の整備を進めています。</li> <li>○ JR 奈良線の複線化に併せて JR 六地蔵駅の駅舎の改築、駅前広場整備を行っています。</li> <li>○ JR 六地蔵駅周辺施設への移動経路には、歩道は概ね整備されていますが、JR 六地蔵駅のホームは狭いところがあります。</li> </ul>
<p>公園・緑地、環境・景観</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 木幡南山周辺のまとまったみどりや、栄華を極めた藤原氏一門の陵墓としても知られる宇治陵周辺のみどり、地域全域にわたって散在している茶畑、東宇治浄化センターも含めたその西側にもうるおいのあるみどりが残されています。</li> <li>○ 宇治市と伏見区にまたがる湿地帯を含む広大な池沼「木幡池」は、野鳥が飛来し、花とみどり豊かな地域資源として親しまれています。</li> </ul>
<p>都市防災</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 過去に宇治川などの氾濫でたびたび被害に遭っており、浸水被害の危険性が危惧されます。</li> <li>○ 密集市街地等や老朽化した住宅が多い地区では、災害時に緊急車両が通れない生活道路の状況など防災体制の低さが見受けられます。</li> <li>○ 近年の頻発化、激甚化する水害等により、浸水や土砂災害など災害リスクが高い地域があります。</li> </ul>

## (3) これからの地域づくりの主な課題

<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 商業ニーズの変化、住宅ニーズの増大、ホテル撤退など文化交流機能の低下等の市民ニーズの変化を踏まえ、広域的な交通結節点としてのにぎわいのあり方の検討が必要です。</li> <li>■ 丘陵地の低層住宅専用地域では良好な住環境保全のため日常の買物・サービス店舗の立地が規制されており、市民ニーズを踏まえた検討が必要です。</li> <li>■ 交通結節性の充実を活かしたまちの魅力の維持・向上のため隣接する京都市との一体性や相互効果によるまちの強化が必要です。</li> <li>■ 地域内には洪水浸水想定区域などが存在することから、ハザードマップなどによる災害リスクの共有と、既成市街地における防災能力の向上が必要です。</li> <li>■ 御蔵山周辺の緑豊かで閑静な住宅地の維持や、六地蔵周辺の都市機能と生活環境の向上など、安全かつ快適で文化的なまちづくりのため市民と行政のパートナーシップによる将来のまちの姿を共有し実現していく事が重要です。</li> </ul>
---



#### （４）これからの地域づくりのテーマ

現状と課題、地域意見を踏まえ地域づくりのテーマを次のように設定します。

##### 六地蔵エリア

交通利便性の高さを活かしたにぎわいと活力あるまちづくり

安心して歩けるまち

人々の交流の活性化

商業地と住宅地の回遊性を高める

##### 木幡エリア

自然（木幡池・宇治陵）や文化・歴史（許波多神社・松殿山荘・お茶）の保全

住宅地内の通過交通を低減し、安心して歩ける暮らしの道づくり

災害リスクに対応できるまちづくり

#### （５）地域づくりの基本方針

地域づくりのテーマを実現していくための基本方針を、各部門において次のように設定します。

##### ① 土地利用の方針

###### 1) 住宅地

###### ● 快適な生活環境を有する住宅地の形成

住宅が密集している区域では、地区計画の活用などにより必要な都市基盤を検討するなど災害に強く安全・安心に居住できる良好な住宅地の形成をめざします。

また、高齢化の進行等による身近な買物・サービス施設の必要性など市民ニーズの変化に対し、土地利用の方針を踏まえ、立地の妥当性、周辺環境への影響を考慮した総合的な住宅地の形成を検討します。

###### ● 自然や文化・歴史的遺産に囲まれた落ち着いた落ち着きのある低層住宅地の形成

文化・歴史的遺産に囲まれた落ち着いた落ち着きのある低層住宅地の形成をめざします。

特に、宇治陵周辺の住宅地では、歴史的遺産がつくる景観を損なわぬよう、高さや形態、色彩に配慮するとともに、身近なみどりを配した居住環境づくりをめざします。

## 2) 商業地

### ●北の玄関口にふさわしいにぎわいと活力ある都市空間の創出

連携拠点として、鉄道駅と連携した快適な歩行空間の充実を図るなど、回遊できるまちづくりに努めるとともに、市民の商業ニーズの変化を踏まえ地域の特性をいかした魅力ある商業・業務集積を誘導します。

京都市域と一体となった業務施設、住宅などのまちなみを形成していることから、相互効果が期待できるよう地区計画等を活用し、本市の北の玄関口にふさわしいにぎわいと活力ある都市空間の創出を検討します。

## 3) 工業地

### ●木幡池周辺の環境に配慮した工業地の形成

木幡池周辺は工場と住宅地が混在していることから、工業の健全かつ適切な土地利用を維持していくとともに、敷地内の緑化を働きかけるなど周辺との調和に努めます。

## 4) 農地

### ●茶畑の保全

茶畑を中心とした生産緑地は、六地蔵の風情として市民から愛されていることから、引き続き、保全・活用を図るため、特定生産緑地の指定に努めます。

## 5) 森林地、緑地等

### ●地域の重要な資源である東部の森林地、緑地の保全

近郊緑地保全区域に指定されている区域内のみどりは、市街化の拡大の制限や災害発生の防止並びに良好な自然環境、景観及び地域との調和をめざし保全します。

## ② 交通の方針

### 1) 公共交通

#### ●多様な鉄道網を活かした交通結節機能の強化と公共交通の利用促進

JR、京阪および地下鉄がより一層便利で安全に利用できるよう JR 奈良線の複線化及び JR 六地蔵駅の改築など既存公共交通を基盤とした利用促進を図ることで、まちづくりと一体となった交通結節点機能の向上に向けた取り組みを進めます。

### 2) 道路

#### i 幹線道路

#### ●幹線道路の渋滞の緩和等

主要地方道京都宇治線や京都市道外環状線の渋滞緩和を図るための道路ネットワークの充実を進めるとともに、主要地方道京都宇治線及び主要地方道大津宇治線については、交通結節点へ向かう歩行者の安全性確保やまちづくりとの連携のため整備・改良を関係機関と協力して進めます。

## ii その他道路

### ● 地域生活を支える生活道路網の整備

市道大瀬戸熊小路線をはじめ地域内の日常生活に密着している主要な道路は、歩行空間の確保等安全性を考慮した整備、改良を検討します。

## ③ 自然的環境の保全および景観形成等の方針

### 1) 自然的環境

#### ● 湿地や山地の保全と生活環境の維持・保全

木幡池や近郊緑地保全区域内の市街化調整区域では、自然的土地利用の保全を基調としながら道路沿いの不法投棄の防止に努めるとともに、地域の美化活動、緑化活動など、良好な生活環境の維持・保全に努めます。

特に、木幡池は、治水機能を確保しつつ、関係機関と連携を図り、地域の人々にも身近で親しまれる自然豊かな水辺空間づくりをめざします。

### 2) 公園・緑地

#### ● 身近にあるみどりの維持・保全

宇治陵や御蔵山聖天など、昔から残る身近なみどりが残されている地域の豊かなみどりの保全に努めます。

### 3) 文化・歴史的遺産

#### ● 歴史的遺産や神社仏閣等と周辺の樹林地の保全

宇治陵や許波多神社など地域固有の歴史的遺産をはじめ、国の重要文化財である松殿山荘などはその建物だけでなく、歴史を感じさせる樹林地があることから、これらの保全を働きかけます。

### 4) 景観

#### ● 秩序ある商業地の景観形成

業務施設の集積に伴い懸念される建築物の色彩や、看板、広告物などが周囲の景観と調和した、北の玄関口にふさわしい秩序だった景観が形成されるようなまちづくりをめざします。

#### ● 山並みスカイラインの景観保全

市街地東部にある天下峰などにより形成された山並みスカイラインは宇治らしさを象徴する自然的景観であることから、そのスカイラインを構成する山麓から山頂にかけてのみどりの保全に努めるとともに、山麓の住宅地との調和にも配慮します。

#### ● 旧奈良街道のまちなみ景観保全

旧奈良街道沿いの歴史的遺産は周辺の景観なども含めてその保全に努めるとともに、それらと地域内の各駅周辺や主要施設、緑道などの自然的環境の中を安全に歩ける歩行者空間づくりに努めます。

#### ④ 都市防災の方針

##### ● 浸水に対する防災機能強化

近年の気候変動に対応できるよう堂の川をはじめとする河川・水路の改良を計画的に進めます。また、木幡池（堂の川）の貯留機能は治水上重要な役割をもっていることから、今後、関係機関と連携を図り、治水上の調整機能の維持・向上を図るなど治水対策に努めます。

##### ● 災害リスクの情報共有

地域内には、水災害リスクの高い地域があります。ハザードマップなどを用いて、市民と浸水や土砂災害の危険性のある地域の情報の共有に努めます。

#### ⑤ まちづくり活動の方針

##### ● パートナーシップによるまちづくり活動の推進

地域住民によるまちづくり活動として、南御蔵山地区では緑ゆたかで閑静な住宅地蔵駅周辺地区では、都市機能と生活環境の向上を図り、安全かつ快適で文化的なまちづくりを推進することをめざしています。宇治市では、こうした地域の将来のまちの姿を共有し、住民によるまちづくり活動を支援します。

六地藏地域 地域づくり基本方針図



**土地利用の方針**

- 快適な生活環境を有する住宅地の形成
- 自然や文化・歴史的遺産に囲まれた落ち着いた低層住宅地の形成
- 北の玄関口にふさわしいにぎわいと活力ある都市空間の創出
- 木幡池周辺の環境に配慮した工業地の形成
- 茶畑の保全
- 地域の重要な資源である東部の森林地、緑地の保全

**まちづくり活動の方針**

- ◎ パートナーシップによるまちづくりの推進

**交通の方針**

多様な鉄道網を活かした交通結節機能の強化と公共交通の利用促進

- 交通結節機能の充実 (複線化)
- バスなど公共交通の利用促進
- 地域生活を支える道路網の整備
- 幹線道路の整備
- 主な道路
- 計画路線

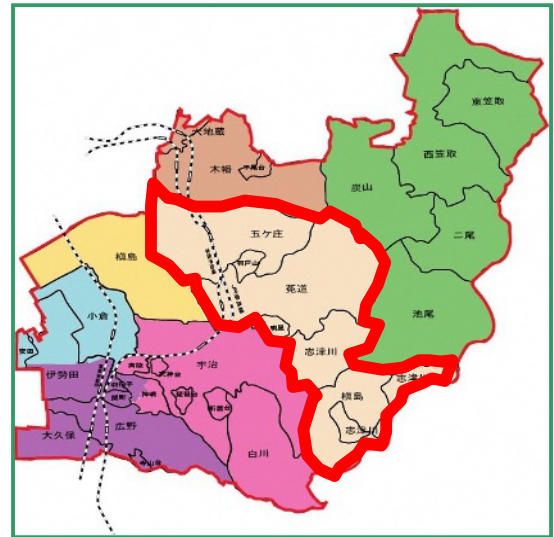
**自然的環境の保全および景観形成等の方針**

- 湿地や山地の保全と生活環境の維持・保全
- 歴史的遺産と周辺の樹林地の保全
- 秩序ある商業地の景観形成
- 山並みスカイラインの景観保全
- 旧奈良街道のまちなみ景観保全



## 2 黄檗地域

(五ヶ庄・羽戸山・菟道・明星町・志津川)



### (1) 地域の特徴

#### 五ヶ庄・羽戸山・菟道・明星町エリア

○黄檗地域は、宇治市のほぼ中央部に位置しています。西側には京都大学、陸上自衛隊宇治駐屯地が、東側には萬福寺や三室戸寺があるなど、文化的、歴史的にも多様な施設が立地する地域です。

○羽戸山や明星町などは閑静な住環境が形成されている地域です。



#### 志津川エリア

○志津川は市街化調整区域の集落地であり、自然豊かな風情ある落ち着いたたたずまいを持っている地域です。



(2) 地域の現状

<p>土地利用</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 京都大学や陸上自衛隊宇治駐屯地を除くと、住宅地が中心であり地域の約 7 割を占めています。</li> <li>○ 市街地は、JR 黄檗駅・京阪黄檗駅および京阪三室戸駅を中心に、主要地方道京都宇治線に沿って、日常の買物など小規模な商業・業務地が形成されています。</li> </ul>
<p>交通</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ JR 奈良線の高速化・複線化事業により、利便性・安全性の向上に取り組んでいます。</li> <li>○ 主要地方道京都宇治線の JR 黄檗駅・京阪黄檗駅付近は、道路改良が行われ交通の円滑化及び歩行者等の安全性が向上しました。</li> <li>○ 地区内の道路では、朝夕の通勤・通学ラッシュが激しいところでも道幅は狭く歩道が整備されていないなど、安全性に問題がある所も見られます。また、地域内の生活道路への車の流入も多く見られます。</li> <li>○ 身体障害者や高齢者等だれもが安全に移動できるよう、JR 木幡駅・京阪木幡駅、京阪黄檗駅のバリアフリー化が実施されています。</li> </ul>
<p>公園・緑地、環境、景観</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 宇治の歴史・文化や宇治茶に関する魅力の情報発信を行う施設として、お茶と宇治のまち歴史公園が完成しました。</li> <li>○ 萬福寺周辺地区を景観計画重点地区に位置付け、歴史的遺産と豊かな自然環境が調和した景観形成を進めています。</li> <li>○ 旧奈良街道などに見られる趣のある風景や、歴史的な寺院が見られるなど、歴史的遺産が多い地域であることから、訪れる人々も多く見られます。</li> <li>○ 宇治川など市街地に隣接した身近な自然をはじめ、志津川や高峰山など、豊かな自然的景観が広がっています。</li> <li>○ 志津川周辺の山では、人工林は手入れされずに放置され、自然林は松枯れやナラ枯れによる倒木が見られます。</li> </ul>
<p>都市防災</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 近年の頻発化、激甚化する水害等により、浸水や土砂災害など災害リスクが高い地域があります。</li> <li>○ 地域防災拠点である黄檗公園の体育館の耐震化、野球場を災害発生時の応援部隊の駐留地として整備するなど防災機能の強化の取り組みを進めています。</li> </ul>

(3) これからの地域づくりの主な課題

<ul style="list-style-type: none"> <li>■ JR黄檗駅のバリアフリー化は奈良方面のみであり駅構内バリアフリー化の取り組みが必要です。</li> <li>■ 地域内には洪水浸水想定区域などが存在することから、ハザードマップなどによる災害リスクの共有と、既成市街地における防災能力の向上が必要です。</li> <li>■ 志津川地区の緑豊かな美しい自然を活かし、生涯助け合って生きていけるまちづくりや、明星町地区の住環境を良好に保ち健康で安心できる、安全で住んでよかったと思えるまちづくりなど将来のまちの姿を共有できるパートナーシップによるまちづくりの継続が必要です。</li> </ul>
--



#### （４）これからの地域づくりのテーマ

現状と課題、地域意見を踏まえ地域づくりのテーマを次のように設定します。

##### 五ヶ庄・羽戸山・菟道・明星町エリア

安全で住みよいまちを支える都市基盤の充実

みどりと歴史・文化に囲まれた安らぎある住宅地の形成

うるおいのある自然的環境と世界に誇る文化・歴史的遺産を保全・活用

地域内の文教施設などを活用したまちづくり

##### 志津川エリア

志津川のまちなみの保全

居住環境を守り引継ぐ

#### （５）地域づくりの基本方針

地域づくりのテーマを実現していくための基本方針を、各部門において次のように設定します。

##### ① 土地利用の方針

###### 1) 住宅地

###### ● 自然や歴史的遺産に囲まれた落ち着いたきのある低層住宅地の形成

五雲峰に連なる山並みなどの豊かな自然的環境や歴史的遺産に囲まれた落ち着いたきのある、また、災害に強い低層住宅地の形成をめざします。このうち、羽戸山や明星町の背後には、緑地が多く見られる台地部があり、みどりに囲まれた住宅地の環境を維持しつつ、災害に強く、眺望のよい安全で安心できる居住環境づくりをめざします。

また、高齢化の進行等による身近な買物・サービス施設の必要性など市民ニーズの変化に対し、土地利用の方針を踏まえ、立地の妥当性、周辺環境への影響を考慮した総合的な住宅地の形成を検討します。

###### ● 文教施設等との連携による落ち着いたきのあるより良い教育・居住環境の創出

萬福寺周辺をはじめ歴史的遺産が残された住宅地では、景観計画などにより現在の趣ある景観の保全に努めるとともに、近接する各種教育施設等との連携を図ることによって、落ち着いたきのあるより良い教育・居住環境づくりをめざします。

## 2) 商業・業務地

### ● 地域の生活拠点としての機能の充実

商業・業務施設が立地する黄檗駅周辺および三室戸駅周辺では、交通結節性を活かした地域の生活拠点としての機能の充実により、商業の活性化などに向けた検討を行います。

### ● 地域住民・周辺住民の日常生活を支えていくための商業地の形成

主要地方道京都宇治線沿道の商業地は、既存の商業集積を活かしながら、地域住民はもとより周辺住民の日常生活を支えていくための商業地の形成を誘導します。

## 3) 農地

### ● 農地の維持・保全

宇治川右岸の市街化調整区域、農業振興地域の農地や、茶畑を中心とした市街地の生産緑地は、保全・活用を図るとともに、引き続き特定生産緑地の指定に努めます。

## 4) 山間集落地

### ● 落ち着いたたたずまいをもつ農業集落地の維持・保全

志津川に点在する農業集落や既存の住宅地は、風情ある蔵の風景や生垣などのみどりが多く、落ち着いたたたずまいをもっていることから、住環境の維持や秩序ある発展など地域振興に向けたまちづくりは、市街化調整区域の性格を変えない範囲で、地区計画その他の手法の活用について、地元とともに検討を進めます。

## 5) 森林地・緑地等

### ● 市街地周辺に広がる森林地・緑地の保全

天ヶ瀬森林公園や市街地の背後に広がる森林や宇治川河川敷等のみどりの保全に努めます。

## ② 交通の方針

### 1) 公共交通

#### ● 鉄道などの公共交通の充実

JR 奈良線複線化の第二期事業の完成により定時性の確保や安全性の向上が図られることから、その事業効果を踏まえつつ、JR や京阪のさらなる利用促進や利便性向上について、引き続き研究します。

また、JR 黄檗駅及び駅周辺のバリアフリー化に取組み、交通結節点機能の向上に努めます。

## 2) 道路

### i 幹線道路

#### ● 主要地方道京都宇治線の整備・改良促進

主要地方道京都宇治線については、沿道に形成されている商業地・住宅地の居住環境への配慮を図りながら、整備・改良に向け関係機関と協力して進めます。

### ii その他道路

#### ● 地域生活を支える幹線道路網の整備

市道宇治五ヶ庄線をはじめ地域内の日常生活に密着している主要な道路については、歩行区間の確保や踏切の改善、交差点改良など、歩行者の安全性を考慮した整備・改良を検討します。

## ③ 自然的環境の保全および景観形成等の方針

### 1) 自然的環境

#### ● 農地や山地の保全と生活環境の維持・保全

市街化調整区域内の自然的土地利用の保全を基本としながら、道路沿いの不法投棄の解消に努力するとともに、地域の美化活動、緑化活動など、市民と協働で良好な生活環境の維持・保全に努めます。

### 2) 公園・緑地

#### ● 宇治の豊かな自然の象徴である宇治川の清流や周辺のみどりの保全

宇治川を中心とした貴重な自然的環境が残されている地域は「豊かな自然の象徴を守るエリア」と位置づけます。また、天ヶ瀬ダム放流の間近で体感することが出来る広場の整備や、宇治川の堤防を利用した緑道などとあわせて、市民の散策やレクリエーションの場とするとともに、周辺観光につながるよう自然的環境を損なわない範囲での利用を進めていきます。

#### ● 多様な公園・緑地機能の充実

黄檗公園、天ヶ瀬森林公園などは、みどりと交流の拠点として整備を進めるとともに、既存公園の維持に努め、住宅地の生垣緑化など、地域の緑化を推進します。また、市街地のみどりでもある生産緑地などの保全に努めます。

#### ● 志津川周辺の貴重な自然的環境の保全・育成

志津川では周辺の貴重な自然的環境の保全・育成に努めます。

### 3) 文化・歴史的遺産

#### ● 地域内の史跡・歴史的建造物・神社仏閣の保全

萬福寺、三室戸寺などの歴史的遺産の保全や境内周辺の樹木の保全を図るとともに、観光の推進に努めます。

また、国史跡である宇治川太閤堤を有するお茶と宇治のまち歴史公園は、宇治の歴史・文化や宇治茶の魅力の情報発信を行う施設として、「お茶の京都」エリアへのゲートウェイの役割をめざします。

#### 4) 景観

##### ● 住宅地周辺での秩序ある市街地景観の形成

住宅地周辺は低層住宅との調和を考慮した秩序ある市街地景観の形成を図ります。

##### ● 山並みスカイラインの景観保全

山並みスカイラインは宇治らしさを象徴する自然的景観として、その保全に努めます。

##### ● 旧奈良街道のまちなみ景観保全

旧奈良街道沿いの歴史的遺産は周辺の景観なども含めてその保全に努めるとともに、それら歴史的遺産と各駅周辺、主要施設および自然的環境の中を安全に歩ける歩行者空間の形成をめざします。

特に、黄檗山萬福寺と旧街道沿いの歴史的まちなみ及びその周辺地域については、景観計画によりそれらが一体感のある景観の形成を進めます。

#### ④ 都市防災の方針

##### ● 防災拠点の整備

黄檗公園を東宇治地域の現地対策本部、応援部隊の集結など救援活動の拠点として位置付け、避難場所となるオープンスペースを確保する他、備蓄倉庫・防災トイレ等の整備により都市防災機能を有した公園整備を推進します。また、周辺の公共施設等と連携し、災害時の対応強化を図ります。

##### ● 浸水に対する防災機能強化

地域内には大小様々な河川・水路があり、その周辺は市街化が進んでいます。近年の気候変動の影響への対策が必要で、特に、弥陀次郎川や戦川、新田川などの流域では雨水流出抑制策も含め総合的な治水対策の推進に努めます。

##### ● 災害リスクの情報共有

地域内は、水災害リスクの高い地域があります。ハザードマップなどを用いて、市民と浸水や土砂災害の危険性のある地域の情報の共有に努めます。

## ⑤ まちづくり活動の方針

### ● パートナーシップによるまちづくり活動の推進

住民によるまちづくり活動として、志津川地区では緑豊かな美しい自然をいかし、生涯助け合って生きていけるまちづくりをめざしています。また、明星町地区では住環境を良好に保ち健康で安心できる、安全で住んでよかったと思えるまちづくりの実現に向けて取り組んでいます。宇治市では、こうした地域の将来のまちの姿を共有し、住民によるまちづくり活動を支援します。



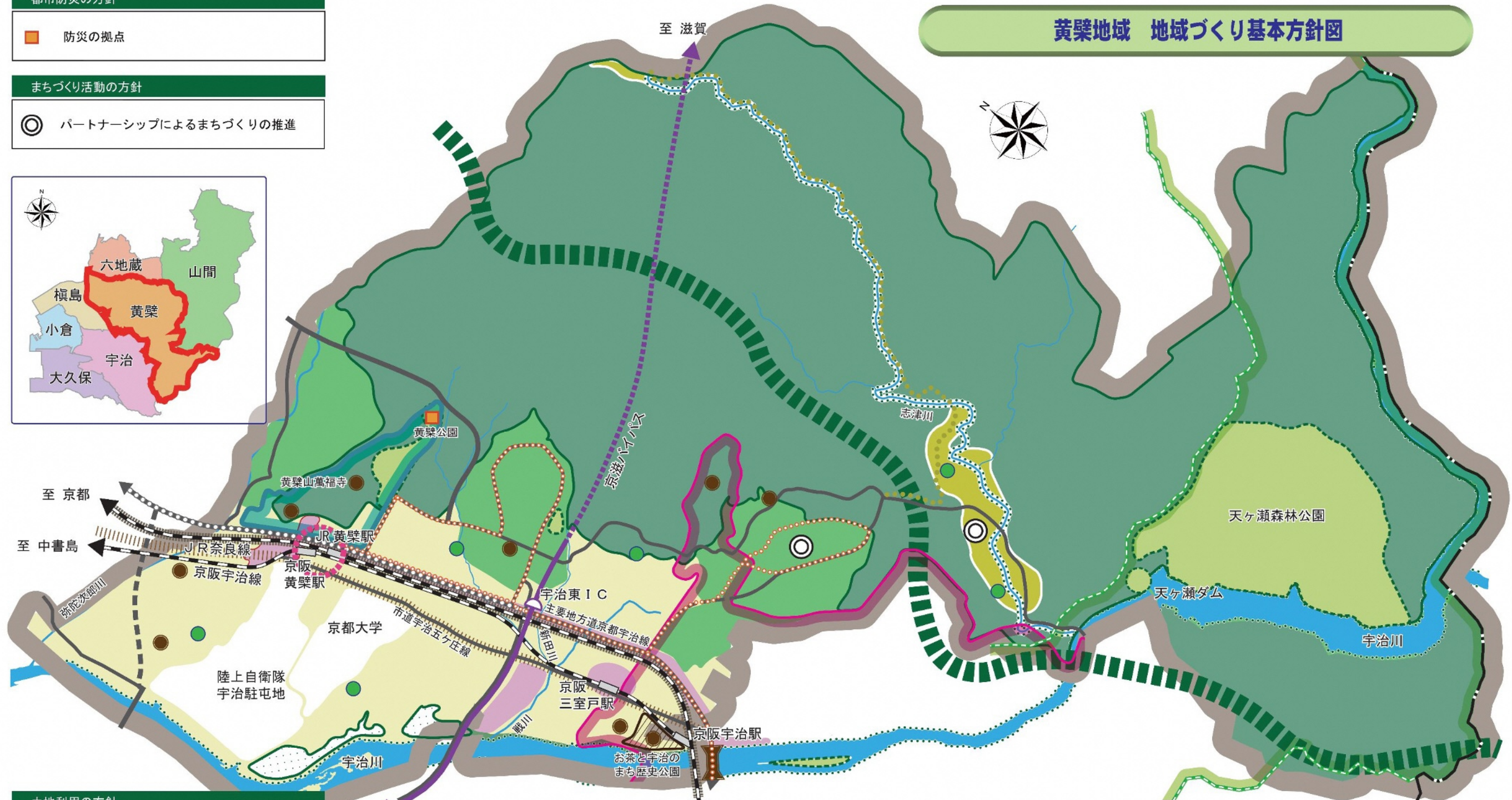
黄檗地域 地域づくり基本方針図

都市防災の方針

- 防災の拠点

まちづくり活動の方針

- ◎ パートナーシップによるまちづくりの推進



土地利用の方針

- 落ち着いたあるより良い教育・居住環境の創出
- 自然や文化・歴史的遺産に囲まれた落ち着いたある低層住宅地の形成
- 地域の「生活拠点」としての機能の充実や魅力の向上
- 地域住民・周辺住民の日常生活を支えていくための商業地
- 山間集落地の居住環境の維持・保全エリア
- 農地・生産緑地の維持・保全
- 市街地周辺に広がる森林地・緑地の保全

交通の方針

- 鉄道などの公共交通の充実
- 交通結節機能の充実 (複線化)
- バスなど公共交通の利用促進
- 地域生活を支える道路網の整備
- 幹線道路の整備
- 主な道路
- 計画路線

自然的環境の保全および景観形成等の方針

- 農地や山地の保全と生活環境の維持・保全
- 宇治の豊かな自然の象徴である宇治川の清流や周辺のみどりの保全
- 豊かな自然の象徴を守るエリア
- 多様な公園の整備と緑化の推進
- 志津川周辺の貴重な自然環境の保全・育成と憩いの空間としての活用
- 史跡・歴史的建造物の保全
- 史跡とお茶の文化を知り、体感できる観光交流拠点の整備の推進
- 宇治らしい趣のある歴史的風致の維持向上に重点的に取り組むエリア
- 萬福寺周辺の歴史的なまちなみと一体感のある景観の形成を図るエリア
- 旧奈良街道のまちなみ景観保全
- 山並みスカイラインの景観保全





### 3 宇治地域

(宇治・折居台・琵琶台・天神台  
南陵町・神明・白川)



#### (1) 地域の特徴

○宇治市の中央から南部に位置し、JR宇治駅をはじめ宇治市役所や歴史的建造物、宇治橋通り商店街、工場地域など、行政、文化・歴史、商工業の中心的役割を担う地域です。

#### 宇治橋周辺エリア

○世界遺産である平等院や宇治上神社をはじめ、縣神社、宇治神社、放生院(橋寺)、恵心院及び興聖寺などの歴史的遺産や宇治川など観光資源が集積している地域です。

○JR宇治駅前や宇治橋通り、平等院表参道を中心に日用品や観光みやげ等の商業施設が形成されており、利便性が高い地域です。

○宇治川周辺には水やみどりによって形成されたうるおい空間があり、優れた自然景観が楽しめる場を持っている地域です。

#### 白川エリア

○白壁のまちなみがあるとともに、白川金色院跡による棚田状の田畑や茶畑と周辺集落、それを取り囲む里山が一体となった景観が形成された市街化調整区域の地域です。

#### 宇治・折居台・琵琶台・天神台・南陵町・神明エリア

○身近なみどりに包まれた閑静な低層住宅地が形成されており、特に、折居台には中央図書館、文化センター、東山公園などの公共施設が充実しており、利便性にも優れた地域です。



（２）地域の現状

<p>土地利用</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 住宅地では身近なみどりに包まれた閑静な住宅地が展開しており、特に、折居台には中央図書館、文化センター、東山公園などの公共施設が充実しており、利便性にも優れた場所となっています。</li> <li>○ 白川が有する豊かな自然的環境の保全に取り組んでいますが、不法投棄や休耕などの問題をはらんでいます。また、農家の後継者問題も含め市民団体と連携したまちづくりを行う必要があります。</li> <li>○ 宇治川周辺や白川周辺では、重要文化的景観や景観計画など歴史的風致の維持向上に向け重点的に取り組んでいます。</li> <li>○ 工業地域の大半は一企業の工場で占められており、準工業地域には工場・住宅の混在が見られます。</li> </ul>
<p>交通</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新たな幹線である新名神高速道路の開通など、広域的な道路網は充実していく地域です。</li> <li>○ JR 奈良線の高速化・複線化事業により利便性・安全性の向上に向け、取り組んでいます。</li> <li>○ 身体障害者や高齢者などすべての方が安全に移動できるよう、平成 19 年に宇治駅周辺地域バリアフリー基本構想を策定し取り組みを進めています。</li> <li>○ 主要地方道宇治淀線の朝夕の渋滞に伴う縣通り、宇治橋通りおよび朝霧通りの通過車両対策などが求められています。</li> </ul>
<p>環境・公園・緑地・景観</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 宇治川は悠々たる川の流れとともに、その両側には豊かなみどりを有しており、散策に適した道路や施設が整備されています。</li> <li>○ 宇治橋通り商店街へ人を呼び込むために、空き店舗利用による商店街の再生や駐車場の整備を図るとともに、良好な景観の形成を図っています。</li> <li>○ 世界遺産をはじめ縣神社、宇治神社、放生院（橋寺）、恵心院、興聖寺など、宇治川を中心に様々な時代の日本の表舞台であったことを垣間見る歴史的遺産が保存されています。</li> <li>○ 白川では白壁のまちなみがあるとともに、丘陵地のゆるやかな斜面を利用した大規模な段丘上の茶畑や寺川の清流など、多様な景観が見られます。</li> </ul>
<p>防都災市</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 近年の頻発化、激甚化する水害等により、宇治川に接するエリアや山間部の白川エリアでは浸水や土砂災害などが特に懸念されます。</li> </ul>

（３）これからの地域づくりの主な課題

<ul style="list-style-type: none"> <li>■ JR 宇治駅・京阪宇治駅周辺のエリアでは観光客も地域住民も楽しめるまちの魅力の向上の検討が必要です。</li> <li>■ 宇治橋（主要地方道京都宇治線）を起点とした周辺地域の渋滞が発生しており、広域的な道路網のあり方や観光車両の分散など引き続き検討が必要です。</li> <li>■ 地域内には洪水浸水想定区域などが存在することから、ハザードマップなどによる災害リスクの共有と、既成市街地における防災能力の向上が必要です。</li> <li>■ 白川地区の良好な景観づくりや、歴史文化の継承及び茶業の振興などに向けまちづくりや、南陵町の安心、安全、良好な住環境を守る活動、平等院表参道の地域の歴史的・文化的な背景を活かした良好な景観づくりなど将来のまちの姿の共有が必要です。</li> </ul>
--

#### （４）これからの地域づくりのテーマ

現状と課題、地域意見を踏まえ地域づくりのテーマを次のように設定します。

##### 宇治橋周辺エリア

だれもが安心して歩いて楽しめるまちづくり

宇治川周辺の文化・歴史・自然が調和したまちづくり

宇治川周辺が快適空間となる整備

##### 白川エリア

白川のまちなみの保全および景観、文化・歴史の継承と住環境の維持

##### 宇治・折居台・琵琶台・天神台・南陵町・神明エリア

みどり豊かで快適な住環境

#### （５）地域づくりの基本方針

地域づくりのテーマを実現していくための基本方針を、各部門において次のように設定します。

##### ① 土地利用の方針

###### 1) 住宅地

###### ● 自然や歴史的景観に配慮した良好な住宅地の維持・保全

世界遺産や宇治川周辺の自然的環境などを活かしつつ、防災機能の強化、身近な公園・並木の充実などを図り、良好な住環境の維持・保全をめざします。また、工業地周辺で工場と住宅の混在が見られる JR 奈良線以北周辺では、生活道路など生活基盤の充実を図るとともに、地区計画などの活用により計画的な調和のとれた土地利用を誘導します。

###### ● 落ち着きとうるおいのある低層住宅地の維持・保全

折居台・琵琶台では起伏に富んだ地形の中で山城総合運動公園などの豊かな自然的環境に囲まれており、眺望性のよい落ち着きのある低層住宅地の形成をめざします。また、天神台・南陵町・神明周辺は現在の良い居住環境を保全しつつ、より良い居住環境を創出していくことをめざします。また、高齢化の進行等による身近な買物・サービス施設の必要性など市民ニーズの変化に対し、土地利用の方針を踏まえ、立地の妥当性、周辺環境への影響を考慮した総合的な住宅地の形成を検討します。

● **利便性に富みまとまりのある官庁街の確立**

琵琶台周辺に集中する市役所を中心とした官庁街では、行政サービスの円滑化だけにとどまらず、地域の人々が憩える場や知識・情報提供の場など生活利便施設の充実をめざします。

2) **商業地**

● **宇治市の中央玄関口として独自性をもつ商業環境と豊富な歴史的遺産を活かしたまちづくりを誘導**

J R宇治駅周辺の商業地では、宇治市の中央玄関口として宇治の魅力を提供できる独自性をもつ商業環境と豊富な歴史的遺産を活かしたまちづくりを誘導します。

3) **工業地**

● **周辺環境と調和した工業地の誘導**

J R奈良線以北周辺の工業地は周辺の環境と調和し、また、地域の利便性を考慮した土地利用を誘導します。

● **活力ある都市を目指すための新たな産業立地の検討**

多様な働く場の創出のため、産業立地検討エリアとして市道宇治白川線沿道への新たな産業立地の検討を始めます。本地域は、原則市街化を抑制する区域であることを踏まえ、農林漁業等との調整・連携を図りつつ、周辺環境及び景観に配慮して検討します。

また、本地域は、新たに整備される新名神高速道路までのアクセスが良好であるが接続道路との一体的な整備が必要となるため、周辺の土地利用との調整を図りながら、計画的かつ適切な時期に検討します。

4) **農地**

● **農地・生産緑地の保全と茶業の振興**

白川地域の茶畑や市街地内にある生産緑地は、保全・活用を図るため、引き続き特定生産緑地の指定に努めます。

また、茶協同組合や府立茶業研究所などとの連携を図りつつ、茶業の振興と宇治ブランドの保全に努めます。

5) **山間集落地**

● **伝統的な集落環境と景観の保全・整備**

白川周辺の山間集落地では農業の保全を前提としながら、ゆとりある田園居住空間の創出をめざします。また、金色院跡などの歴史的遺産を活かし、生垣などの身近なみどりが十分に配された伝統的な集落環境と景観の保全・整備に努めます。

また、地域の発展のため、市街化調整区域の性格を変えない範囲で住環境の維持や秩序ある土地利用を住民と協働で検討します。

## 6) 森林地・緑地等

## ● 市街地東部に広がる森林地・緑地の保全

国定公園にも指定されている市街地の東部に広がる森林地や宇治川河川敷などのみどりはその保全に努めるとともに、東海自然歩道を基本とした周辺のネットワーク化を図ることにより、本市を代表する貴重な自然的環境に触れることのできる歩行者空間づくりに努めます。

## ② 交通の方針

## 1) 公共交通

## ● 利便性の高い交通施設の充実と交通結節機能の強化

JR 奈良線の複線化による定時制確保や安全性の向上を進めるとともに、文化・歴史・自然が調和したまちづくりと一体となった交通結節点機能の強化を進め、既存公共交通の利用促進に努めます。

## 2) 道路

## i 幹線道路

## ● 市街地にアクセスする幹線道路網の整備

本地域には宇治橋を中心に自動車交通が集中する傾向が強く、特に朝夕の渋滞がみられる主要地方道宇治淀線や市道宇治白川線および宇治榎島線などの幹線道路とともに幹線道路網の整備が必要です。

また、新名神高速道路開通後の交通状況を見極め、交通の円滑化をはじめ交通容量の拡大や通過交通の市街地流入の抑制などによる交通分散・円滑化の検討を進めていきます。

## ii その他道路

## ● 地域内活動を支える道路網の整備

宇治橋通り商店街がある市道宇治橋線など、その役割を明確にしつつ、幹線道路の整備による通過交通の地域流入を抑制するなど周辺居住環境の向上を図ります。また、商店街などとの連携により地域内を楽しく安全に歩くことのできる歩行者ネットワークを形成するとともに、地域全体としての魅力ある歩行者空間づくりをめざします。

## ③ 自然的環境の保全および景観形成等の方針

## 1) 自然的環境

## ● 良好な自然的環境の保全・活用

市街地に隣接した宇治川の東部および南部の森林地・緑地は琵琶湖国定公園<sup>\*</sup>や風致地区、史跡・名勝などの指定を受けており、引き続き自然的土地利用の保全・活用に努めます。

## 2) 公園・緑地

### ● 宇治の豊かな自然の象徴である宇治川の清流や周辺のみどりの保全

宇治川の清流と眺望が楽しめる沿道のみどりを保全し、快適なみどりの空間を保全します。

### ● 多様な公園の利活用と機能の充実

山城総合運動公園、東山公園、宇治公園および大吉山風致公園はみどりと交流の拠点として、引き続きその利活用と機能充実に努めるとともに、市民の散策やレクリエーションの場として利用を促進します。

## 3) 文化・歴史的遺産

### ● 地域内の歴史的建造物・神社仏閣の保全

世界遺産である平等院および宇治上神社をはじめ縣神社、宇治神社、放生院（橋寺）、恵心院および興聖寺など、歴史的遺産はその社寺林を含め保全に努めます。

## 4) 景観

### ● 市民のシンボル景観の保全と継承

宇治川の宇治橋上流域や世界遺産の平等院および宇治上神社周辺を包括する多様な景観が重なり合う一帯を、宇治市民のシンボル景観として保全・継承するために、その周辺については、高さや形態、色彩などに配慮した建築行為が行われるよう努めます。一方、宇治川周辺や白川周辺では山並みスカイラインの保全に努めるとともに、茶畑などのみどり景観の保全にも努めます。

特に、重要文化的景観に選定された地区や白川などその周辺地域については宇治らしい趣のある風情を守り、育てるため、歴史的風致の維持向上に重点的に取り組むエリアとし、各種施策に取り組みます。

### ● 旧奈良街道のまちなみ景観保全

旧奈良街道沿いのまちなみの景観なども含めてその保全に努めるとともに、それらと地域内の各駅周辺や主要施設、自然的環境などを安全に歩ける歩行者空間づくりをめざします。

## ④ 都市防災の方針

### ● 防災拠点の対応強化

応援部隊の集結や物資の集配を行うための京都府の広域防災活動拠点である山城総合運動公園と、災害時に対策本部となる宇治市役所や他の地域の防災拠点、避難所等が連携するなど災害時の対応強化を図ります。

### ● 浸水に対する防災機能強化

地域内には近年の気候変動の影響により道路冠水が発生している地区があり、これらの浸水対策に取り組みます。また、下流域の浸水被害の対策として市民や開発業者等においても雨水流出抑制策に取り組むなど総合的な治水対策の推進に努めます。

### ● 宇治らしい趣のあるまちなみへの配慮と災害に強い市街地づくり

重要文化的景観に選定された地区やその周辺については、宇治らしい趣のあるまちなみに配慮した建物の耐震化・不燃化などのための総合的な対策を検討し、災害に強い市街地づくりに取り組みます。

### ● 災害リスクの情報共有

地域内には、水災害リスクの高い地域があります。ハザードマップなどを用いて、市民と浸水や土砂災害の危険性のある地域の情報の共有に努めます。

## ⑤ まちづくり活動の方針

### ● 観光客も地元住民も楽しめる宇治市の中央玄関口の形成

文化・歴史的遺産や豊かな自然など宇治の観光資源とリンクした宇治橋通り商店街の活性化を図るとともに、「宇治市の中央玄関口」として独自性をもつ商業環境づくりに努めます。

そのため、歩行者が楽しめるような魅力ある快適な歩行者空間づくりを目指すとともに、既存施設を活用するなど、誇れる歴史的環境を活かして誰もが楽しめる参加型観光の機能充実をソフト・ハード両面から地元商店街と協働して取り組みます。

また、JR宇治駅・京阪宇治駅周辺の商店街等やお茶と宇治のまち歴史公園、産業支援拠点等を含む一帯を「モデルエリア」に位置付け、子育て世代の支援と地域の活性化につながる一体的な取組みを進めます。

### ● パートナーシップによるまちづくり活動の推進

地域住民によるまちづくり活動として、白川地区では良好な景観づくりや、歴史文化の継承及び茶業の振興などに向けまちづくりを進めています。また、南陵町地区では、よい町を育てていくことを目的とし安心、安全、良好な住環境を守る活動を進めています。同様に、平等院表参道では、地域の歴史的・文化的な背景を活かした良好な景観づくりを進めています。宇治市では、こうした地域の将来のまちの姿を共有し、住民によるまちづくり活動を支援します。





### 宇治地域 地域づくり基本方針図

#### 土地利用の方針

- 自然や歴史的景観に配慮した良好な住宅地の維持・保全
- 落ち着きとうるおいのある低層住宅地の維持・保全
- 利便性に富みまとまりのある官庁街の確立
- 観光客も地元住民も楽しめる「宇治市の中央玄関口」として独自性をもつ商業環境と他に誇れる歴史的環境を活かした中心商業地の形成
- 周辺環境と調和した工業地の形成
- 山間集落地の居住環境の維持・保全エリア
- 農地・生産緑地の保全と生産基盤の充実による茶業の振興
- 市街地東部に広がる森林地・緑地の保全
- 活力ある都市を目指すための新たな産業立地の検討

#### 自然的環境の保全および景観形成等の方針

- 良好な自然的環境の保全・活用
- 宇治の豊かな自然の象徴である宇治川の清流や周辺のみどりの保全
- 豊かな自然の象徴を守るエリア
- 多様な公園の利活用と機能の充実
- 地域内の歴史的建造物・神社仏閣の保全 伝統的な集落環境と景観の保全・整備
- 市民のシンボル景観の保全と継承
- 宇治らしい趣のある歴史的風致の維持 向上に重点的に取り組むエリア
- 旧奈良街道のまちなみ景観保全
- 史跡とお茶の文化を知り、体感できる 観光交流拠点の整備の推進
- 山並みスカイラインの景観保全

#### 交通の方針

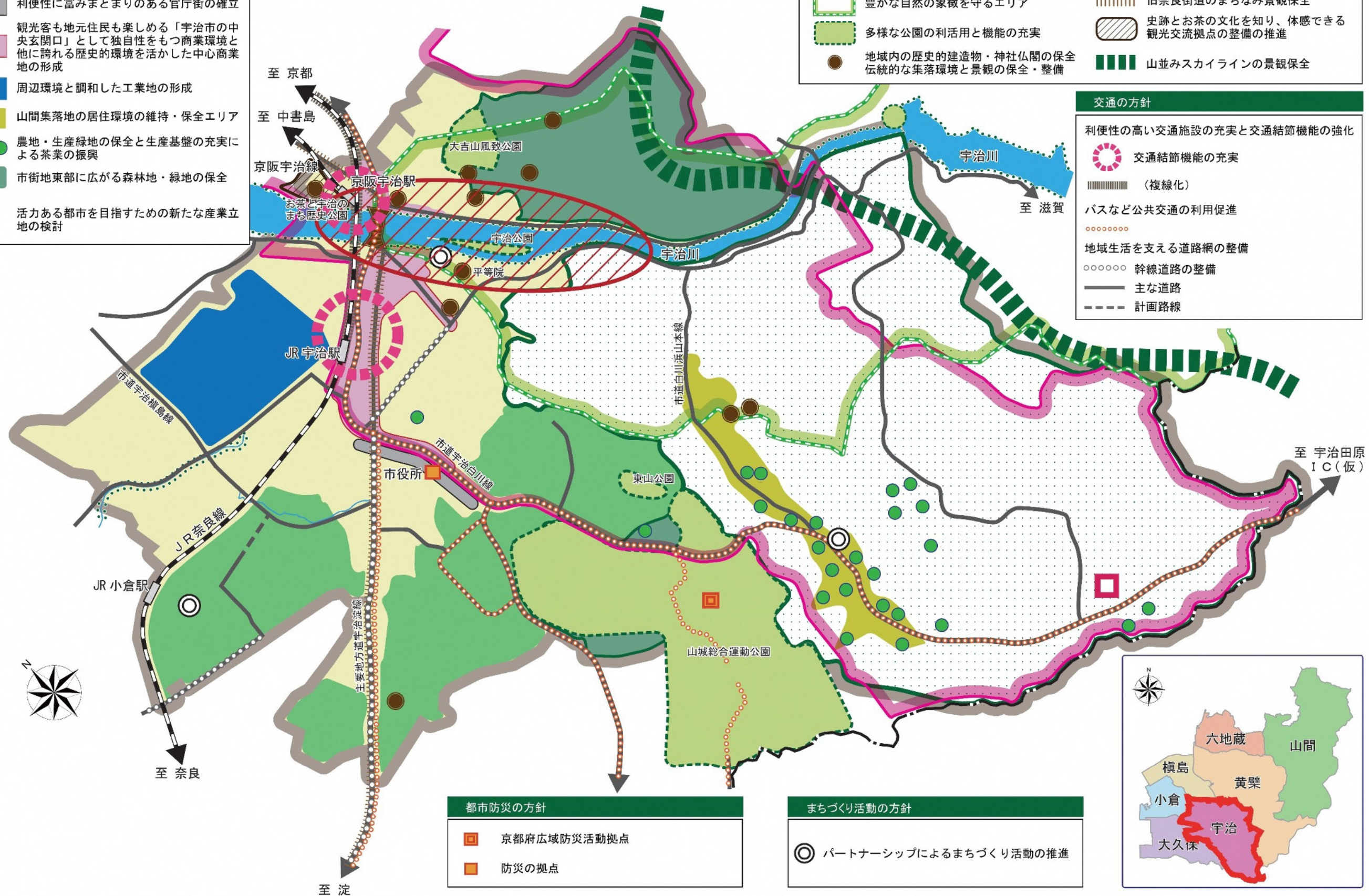
- 利便性の高い交通施設の充実と交通結節機能の強化
- 交通結節機能の充実 (複線化)
  - バスなど公共交通の利用促進
  - 地域生活を支える道路網の整備
  - 幹線道路の整備
  - 主な道路
  - 計画路線

#### 都市防災の方針

- 京都府広域防災活動拠点
- 防災の拠点

#### まちづくり活動の方針

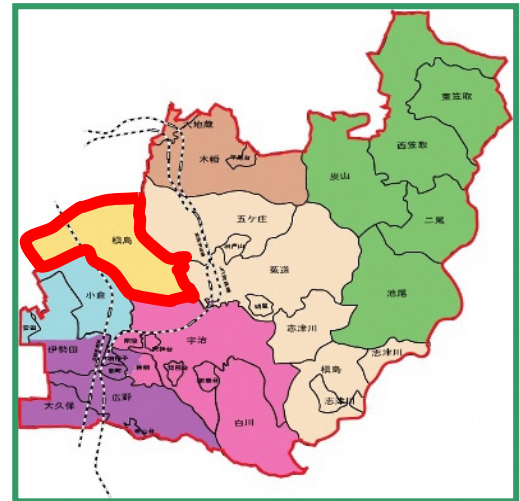
- パートナーシップによるまちづくり活動の推進





## 4 榎島地域

(榎島町)



## (1) 地域の特徴

- 宇治市の北西に位置しており、京滋バイパス、国道24号へのアクセスを活かした市内最大のものづくり産業の集積地です。
- 巨椋池干拓田をはじめとした豊かな自然的環境を活かした魅力づくりを進め、働く場所としての産業基盤の充実とこれを支える利便性・快適性をかね備えた良好な市街地の形成を目指す地域です。
- 医療・福祉施設等整備促進エリアには、地域医療の充実と災害時の対応強化のため、救急・高度医療施設や福祉施設などのさらなる充実をめざす地域です。



はじめに

宇治市の現状と課題

都市づくりの基本目標

部門別方針

地域別構想

参考資料

## （２）地域の現状

<b>土地利用</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市街地のうち住宅地は約 5 割、工業地が約 3 割となっています。</li> <li>○ 工業地域は、土地利用が成熟しており、事業の拡張のための一団の新たな事業用地が少ないです。</li> </ul>
<b>交通</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 宇治市の北西に位置しており、地域の中央を京滋バイパスが東西に横断し、宇治西インターチェンジがあるほか、国道 24 号、主要地方道城陽宇治線が縦断しておりアクセス性は良い地域です。</li> <li>○ 槇島地域には鉄道駅がなく、また、バスの便も少ないです。</li> <li>○ 幹線道路の渋滞や生活道路の狭さ、大型車の通行について安全対策が求められています。</li> <li>○ 大幡付近では緊急車両の通行が難しい狭い道路があるなど歩きにくさが目立ちます。</li> </ul>
<b>環境・公園・緑地、景観</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 室町幕府の終焉の地ともいわれる歴史があります。また、豊臣秀吉によって槇島堤が設けられ、街道の形が大きく変わったことでも有名な場所です。</li> <li>○ 妙光寺、誓澄寺、耕石寺、蛭子嶋神社などの神社仏閣が存在するほか、旧大和街道沿いや藪場に残る蔵や門構えなど、古いまちなみが見られます。</li> <li>○ 巨椋池干拓田をはじめ豊かな水とみどりが残されています。</li> </ul>
<b>都市防災</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 医療・福祉施設等整備促進エリアには、地域災害拠点病院である宇治徳洲会病院が開業しました。</li> <li>○ 近年の頻発化、激甚化する水害等による浸水や、干拓田であり地震による災害被害も比較的大きく発生する恐れがあります。</li> </ul>

## （３）これからの地域づくりの主な課題

<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 幹線道路沿道から工場が撤退し、商業系への土地利用転換や多くの地域で住居の混在が進むなど変化が見られ、事業拡大のための用地が不足しており、操業環境の保全が必要です。</li> <li>■ 道路網は京都市との行政界で慢性的に渋滞しており、安全性、経済的損失、環境のためにも東西軸の強化による分散など、適正な道路網構築が必要です。</li> <li>■ 医療・福祉施設等整備促進エリアについて、ニーズの高い回復期の病院機能の強化等、医療・福祉の連携したさらなる機能充実を進める必要があります。</li> <li>■ ほぼ全域が洪水浸水想定区域であることから流域治水と合わせ、ハザードマップなどにより地震災害も含めた災害リスクの共有と、既成市街地における防災能力の向上が必要です。</li> </ul>
--

#### （４）これからの地域づくりのテーマ

現状と課題、地域意見を踏まえ地域づくりのテーマを次のように設定します。

医療・福祉施設等整備促進エリアの充実

魅力あるものづくり産業の集積

農業を保全し、地域と密着した農業の振興

魅力ある工業地の形成を支える都市基盤の充実

恵まれた自然的環境と文化・歴史的遺産の保全と活用

#### （５）地域づくりの基本方針

地域づくりのテーマを実現していくための基本方針を、各部門において次のように設定します。

##### ① 土地利用の方針

##### 1) 住宅地

##### ● 快適な生活環境を有する住宅地の形成

良好な自然的環境、歴史的遺産および地域のつながりを大切にしながら、防災面の強化・住環境の向上など、地域の魅力を活かした快適な生活環境を有する住宅地の形成をめざします。

##### 2) 商業・業務地

##### ● 地域住民・周辺住民の日常生活を支える商業地の形成

住環境への影響の少ない幹線沿道の大型商業施設などを活かしながら、地域住民はもとより周辺住民の日常生活を支えていくための商業地の形成を誘導します。

##### 3) 工業地

##### ● 一層魅力ある「ものづくり産業拠点」として大規模工場・関連中小工場の集積促進

大規模工場やその関連工場が集積している地区や京滋バイパス宇治西インターチェンジに近接している地区を中心に、本市の特徴であるニッチトップ型の中小企業の集積により一層魅力あるものづくり産業拠点として誘導します。

##### ● 幹線道路などの充実による新たな産業の誘致・振興

産業の集積や宇治西インターチェンジへの近接性など地域が持つ特性を活かすため、さらに幹線道路の円滑性、安全性を向上させることで、新たな産業の誘致・振興をめざします。

●住宅と共存する工業地の形成

住宅と工場等が近接している地域については、土地利用方針を共有することで周辺環境との調和を図りつつ、既存工場の操業環境を確保し、住宅と共存する工業地をめざします。

●活力ある都市を目指すための新たな産業立地の検討

多様な働く場の創出のため、産業立地検討エリアとして新たな産業立地の検討を始めます。本地域は、原則市街化を抑制する区域であることを踏まえ、農林漁業等との調整・連携を図りつつ、周辺環境及び景観に配慮して検討します。

また、本地域は、京滋バイパスに近くアクセスが良好であることから、ものづくり産業が集積しており地域企業の拡張に最適な位置関係であるため、企業ニーズを把握した上で実現性を踏まえ検討に着手します。

4) 農地

●恵まれた自然・農業環境の維持・保全

自然・農業環境に恵まれた市街化調整区域および農業振興地域は、引き続き地域に密着した農業の振興とバランスのとれた土地利用に努めます。

② 交通の方針

1) 公共交通

●公共交通の充実

移動手段の確保に向けて、新たな移動ニーズへの対応について、既存公共交通を基盤とした、持続可能な手法について検討します。

また、地域住民の主体的な取組みに対して、既存公共交通との整合を図りながら、その運営に関する支援策を検討します。

2) 道路

i 幹線道路

●市民生活とものづくり産業拠点を支える幹線道路の整備

行政界に位置する地域であり、またものづくり産業の集積地であることから広域的なまちづくりの視点による道路網の構築により、市民生活と産業活動の活性化を図る必要があります。

また、国道24号及び主要地方道城陽宇治線（旧24号）においては朝夕の渋滞緩和のため、交通の円滑化や歩行者や自転車の安全に配慮した道路改良をめざし、関係機関と連携し取組みます。

## ii その他道路

### ●地域の一体性確保や住宅地・工業地の多様な活動を支える安全な道路の整備

榎島地域の一体性確保、住宅地や工業地の多様な活動を支える道路として歩行空間の確保や速度抑制など安全対策の推進に努めます。

## ③ 自然的環境の保全および景観形成等の方針

### 1) 自然的環境

#### ●自然的環境と調和した生活環境の形成

巨椋池干拓田など広大な農地を代表とした自然的環境と調和したゆとりある生活環境を形成し、新たな生活スタイルをめざします。

そのため、用水路の浄化や農地周辺の貴重な自然的環境の保全・育成、幹線道路沿いの不法投棄の解消に向けて、地域の美化活動、緑化活動など、良好な環境づくりに努めます。

### 2) 公園・緑地

#### ●用水路の再生・活用

用水路は地域住民が憩い、散策、休息などが楽しめるような空間として、その再生・活用をめざします。

#### ●宇治川の清流や周辺のみどりの保全

宇治川沿いの貴重な自然的環境が残されている地域については、その清流や周辺の豊かなみどりの保全に努めます。

### 3) 文化・歴史的遺産

#### ●史跡・歴史的建造物・神社仏閣の保全

妙光寺、誓澄寺、耕石寺、蛭子嶋神社などの神社仏閣およびその境内や周辺の樹木の保全に努めます。

### 4) 景観

#### ●落ち着いたある田園風景と歴史的景観の保全

農地などのみどりに囲まれた落ち着いたある景観を形成するため、住宅を含む建築物などの建築の際には敷地内の緑化推進など、落ち着いたある田園風景の保全に努めます。

旧大和街道沿いや藪場に残る蔵や門構えなど、古いまちなみや道路は、その歴史的景観を守り地域の特色として育てます。

#### ④ 都市防災の方針

##### ● 災害時の拠点施設の整備促進

地域における災害時の避難・救援活動を拠点的に担うための医療・福祉施設等整備促進エリアを設け、地震や水害時でも機能するように必要な措置を講じた救急・高度医療施設などの整備を促進するとともに、これら施設を一時避難地や福祉避難所としても活用します。また、ニーズの高い回復期の病院機能の強化等、医療・福祉の連携した機能充実を進めます。

##### ● 浸水に対する防災機能強化

榎島地域はかつて巨椋池があったことから土地が低く平坦であり、浸水被害が課題となっています。特に、承水溝 3 号水路などの流域では災害の軽減に向け雨水流出抑制策も含めた総合的な治水対策を推進します。

##### ● 災害リスクの情報共有

地域内には、水災害リスクの高い地域があります。ハザードマップなどを用いて、市民と浸水の危険性のある地域の情報の共有に努めます。

#### ⑤ まちづくり活動の方針

##### ● まちづくりを進めるための地域組織づくり

従来までの自治会組織に加え、地域内にある大学の学生との交流や、コミュニティセンターや福祉センターを活動拠点とした様々な取り組みを通じて多種多様な人々による地域組織づくりを推進します。



# 榎島地域 地域づくり基本方針図

## 土地利用の方針

- 快適な生活環境を有する住宅地の形成
- 住宅と共存する工業地の形成
- 地域住民・周辺住民の日常生活を支える商業地の形成
- 新たな産業の誘致・振興  
ものづくり産業拠点として大規模工場、  
関連中小工場の集積促進
- 恵まれた自然・農業環境や住環境  
の維持・保全
- 活力ある都市を目指すための新たな産業  
立地の検討

## 自然的環境の保全および景観形成等の方針

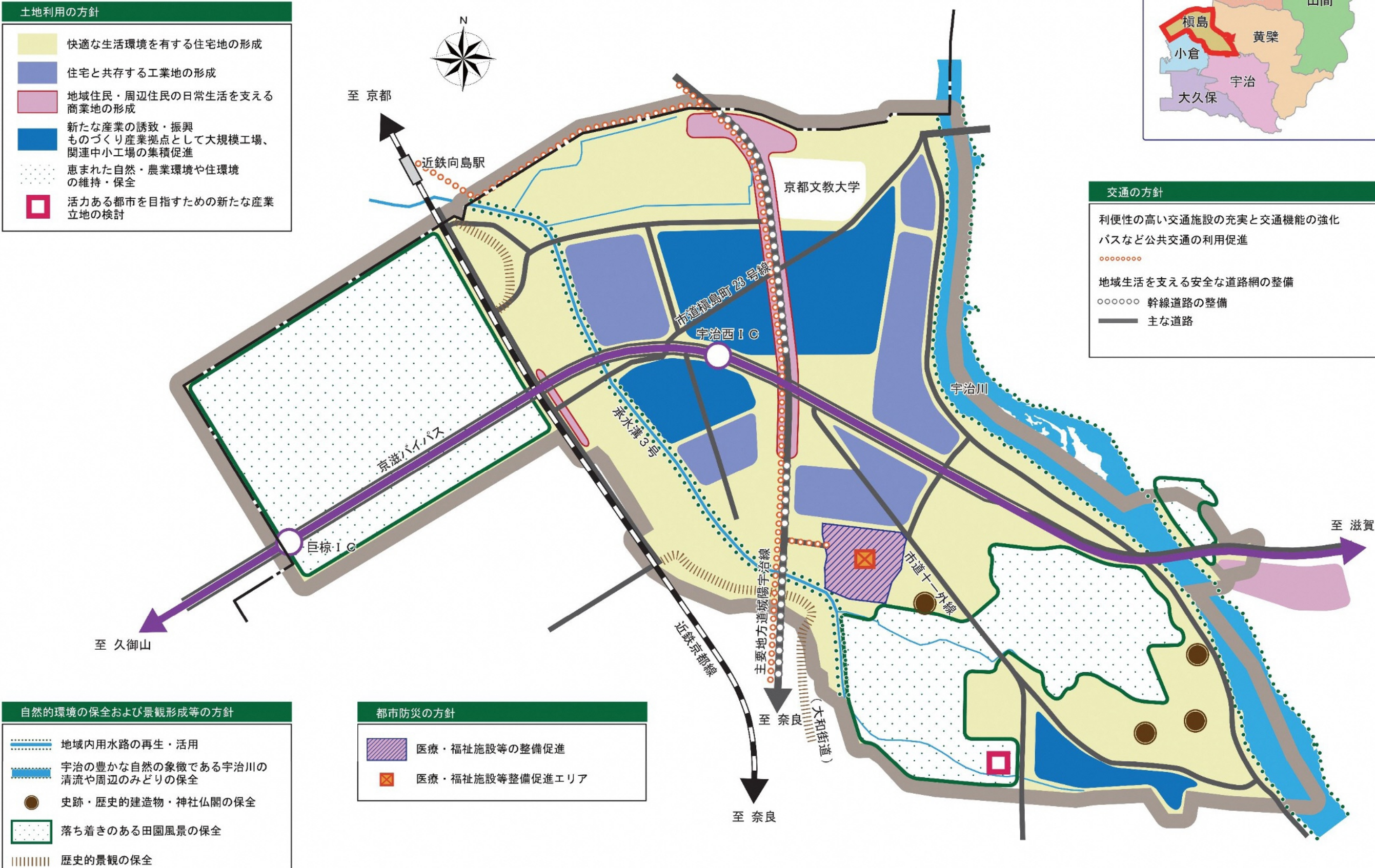
- 地域内用水路の再生・活用
- 宇治の豊かな自然の象徴である宇治川の  
清流や周辺のみどりの保全
- 史跡・歴史的建造物・神社仏閣の保全
- 落ち着いたある田園風景の保全
- 歴史的景観の保全

## 都市防災の方針

- 医療・福祉施設等の整備促進
- 医療・福祉施設等整備促進エリア

## 交通の方針

- 利便性の高い交通施設の充実と交通機能の強化  
バスなど公共交通の利用促進
- 
- 地域生活を支える安全な道路網の整備
- 幹線道路の整備
- 主な道路





## 5 小倉地域

(小倉町・伊勢田町・安田町)



### (1) 地域の特徴

- 小倉地域は宇治市の西に位置し、JR 奈良線や近鉄京都線が通り、京都市および城陽市へ通じる主要地方道城陽宇治線が南北に通っています。また、近鉄小倉駅周辺には商業・業務施設が集中しており非常に利便性が高い地域です。
- 近鉄小倉駅西側は、昭和 30 年代後半から京都市のベッドタウンとして形成された市街地で、密集した住宅地が広範囲に形成されている地域です。
- 近鉄小倉駅東側は、旧大和街道沿いに茶商が立地するなど歴史あるまちなみが残されており、また主要地方道城陽宇治線沿いは、規模の大きい商業施設が立地する地域です。
- 近鉄小倉駅周辺は、駅前広場設置、駅東西の移動の改善、住環境の改善など暮らしやすさを向上させるために、駅周辺の再整備を検討する地域です。



はじめに

宇治市の現状と課題

都市づくりの基本理念と  
基本目標

部門別方針

地域別構想

参考資料

## （２）地域の現状

<p>土地利用</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 主要地方道城陽宇治線より西側は主として住宅地が中心であり、地域の約 7 割を占めています。</li> <li>○ 小倉が市街地を形成したのは昭和 30 年代後半からの京都市のベッドタウン化によるもので、近鉄小倉駅は通勤・通学者を京都へ運ぶ駅としてその重要性を担っており、周辺には約 3 万人の市民が居住しています。</li> <li>○ 住環境については、商業・業務施設の混在による騒音の発生、河川等へのゴミの不法投棄などの問題があります。</li> </ul>
<p>交通</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小倉地域は宇治市の西に位置し、JR 奈良線や近鉄京都線が通り、京都市および城陽市へ通じる主要地方道城陽宇治線が南北に通っています。</li> <li>○ 主要地方道八幡宇治線、主要地方道城陽宇治線では、朝夕の渋滞がみられ、歩行空間の確保が十分ではないところがあります。また、近鉄京都線の踏切により、渋滞が発生しています。</li> <li>○ 駅地下通路のバリアフリー化ができていないなど東西移動に課題があります。</li> </ul>
<p>公園・緑地、環境・景観</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市街地の中には生産緑地や井川沿いの桜並木、西宇治公園など、身近にみどりが感じられます。特に、巨椋池干拓田ではバードウォッチングも楽しむことができ、市民に憩いとうるおいを与えています。</li> </ul>
<p>都市防災</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 密集市街地等や老朽化した住宅が多い地域では災害時に緊急車両が通れない生活道路の状況など防災体制の低さが見受けられます。また、干拓田であることから地震による災害被害も比較的大きく発生する恐れがあります。</li> <li>○ 井川などの流域では雨水流出抑制策も含め総合的な治水対策を計画的に進めていますが、それを上回る水害等が発生した場合は、浸水が発生する恐れがあります。</li> </ul>

## （３）これからの地域づくりの主な課題

<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 商業需要の低下及び買い物ニーズの変化に伴い、駅周辺の商業の魅力のあり方について見直す必要があります。</li> <li>■ 近鉄小倉駅周辺地区まちづくり基本構想では、まちが持つ様々な特徴を活かしたまちづくりを多くの方が望まれていることから、今あるまちの良さを活かした上で、新たな視点を加えた持続・発展するまちづくりを目指します。</li> <li>■ 定住人口につながる多様な働く場を創出するための対策が必要です。</li> <li>■ 駅及びまちの中心部の広範囲が浸水想定エリアであり、災害を踏まえたまちづくりのあり方について検討が必要です。</li> <li>■ ほぼ全域が洪水浸水想定区域であることから、ハザードマップなどによる災害リスクの共有と、既成市街地における防災能力の向上が必要です。</li> </ul>
---

#### （４）これからの地域づくりのテーマ

現状と課題、地域意見を踏まえ地域づくりのテーマを次のように設定します。

生活利便性向上をめざした安全で暮らしやすいまちづくり

生活と商いが融合した活気あるまち

まちの玄関にふさわしいにぎわいのある駅前空間

地域の貴重なみどりを保全しつつ、人々が憩い、交流のできる空間の確保

#### （５）地域づくりの基本方針

地域づくりのテーマを実現していくための基本方針を、各部門において次のように設定します。

##### ① 土地利用の方針

###### 1) 住宅地

- 身近で広大なみどりによる落ち着きとうるおいのある低層住宅地の形成

巨椋池干拓田周辺では身近で広大なみどりと調和した落ち着きとうるおいのある住宅地の形成を目指すとともに、災害に強い安全で安心のできる住宅地としての居住環境づくりに努めます。

- 密集市街地の改善による良好な住宅地の形成

住宅が密集している区域では、必要な都市基盤等のあり方を検討するなどして災害に強い安全で安心して居住できる良好な住宅地の形成をめざします。

###### 2) 商業地

- 地域の生活拠点としての機能の充実や魅力の向上

既存商店などが並ぶ近鉄小倉駅周辺では、個性的で特色のある生活と商いが融合した活気あるまちを目指すとともに、駅前やアクセス性の良さを活かした上で、任天堂資料館（仮称）の新たな魅力を加え、主要地方道城陽宇治線沿道には魅力ある商業・業務集積を誘導します。

###### 3) 工業地

- 活力ある都市を目指すための新たな産業立地の検討

多様な働く場の創出により定住人口につなげられるよう、産業立地検討エリアでの企業立地実現に向け取組みを進めます。本地域は、原則市街化を抑制する区域であることを踏まえ、農林漁業等との調整・連携を図りつつ、周辺環境及び景観に配慮して検討します。

また、本地域は、新名神高速道路までのアクセスが良く、一団の用地の確保も期待できること、職住近接により人材確保がしやすいこと、操業による周辺環境への影響が少ないこと、企業ニーズが高いことから優先的に検討を進めます。

#### 4) 農地

##### ● 巨椋池干拓田を中心とした農地の保全

広大な巨椋池干拓田は市街化調整区域および農業振興地域であり、引き続きその保全・振興に努め、地域に密着した農業の振興とバランスのとれた土地利用となるよう恵まれた自然・農業環境の維持・保全に努めます。

また、巨椋池干拓田はそこに生息する多種多様な生物と人々の交流の場であることから、これらの広大なオープンスペースとしての保全にも努めます。

## ② 交通の方針

### 1) 公共交通

#### ● 近鉄小倉駅の交通結節点機能の強化

まちの玄関にふさわしいにぎわいのある駅前空間となるよう近鉄小倉駅周辺の整備を関係機関と連携し進めます。また、個性ある駅東西の地域を連絡することでまちの活性化につなげるとともに水害など災害時の避難通路とするなど防災力向上を検討します。

さらに、中枢拠点をはじめ他の拠点とまちの魅力を共有できるようまちづくりと一体となった交通ネットワークの構築と、既存公共交通を基盤とした地域住民の新たな移動ニーズへの対応などを検討します。

### 2) 道路

#### i 幹線道路

##### ● 主要地方道城陽宇治線等の整備・改良促進

主要地方道城陽宇治線や主要地方道八幡宇治線の整備・改良については、沿道にある商業地・住宅地の居住環境へ配慮しながら、関係機関と協力して進めます。また、主要地方道城陽宇治線については近鉄小倉駅周辺地区まちづくり基本構想を踏まえた道路のあり方を検討します。

#### ii その他道路

##### ● 生活道路の整備

市道小倉安田線をはじめ地域内の日常生活における主要な道路については、歩行者の安全性を考慮した整備、改良を検討します。

### ③ 自然的環境の保全および景観形成等の方針

#### 1) 自然的環境

##### ● 自然的環境の保全

小倉地域の特徴的なみどりである巨椋池干拓田、井川の桜並木など、身近なみどりと調和したゆとりのある生活空間をつくるため、地域の美化、緑化活動など、良好な環境づくりに努めます。

#### 2) 公園・緑地

##### ● うるおいがあり安らぎのある場の創出

西宇治公園はみどりと交流の拠点としてその機能をさらに充実させます。また、かつての巨椋池を思い起こさせるみどりが豊かな場所、歴史的な雰囲気を感じさせる場所および井川沿いなどに、散策空間を設けるなど、うるおいと安らぎのある場の創出を検討します。

#### 3) 文化・歴史的遺産

##### ● 神社仏閣の保全

旧大和街道沿いにある巨椋神社や地蔵院、観音寺などは地域独特の歴史的遺産であり、その保全や境内周辺の樹木の保全に努めます。

#### 4) 景観

##### ● 旧大和街道沿いの歴史的遺産の保全

旧大和街道沿いの旧小倉村地区などの歴史的なまちなみは、周辺の景観なども含めて景観計画等による景観形成の検討を行います。

### ④ 都市防災の方針

##### ● 防災拠点の活用

西宇治公園を西宇治地域の地域防災拠点として現地対策本部、応援部隊の集結場所など救援活動の拠点の場として、都市防災機能を有した公園として活用します。

##### ● 浸水に対する防災機能強化

小倉地域はかつて巨椋池があったことから土地が低く平坦であり、浸水被害が課題となっています。特に、井川などの流域では雨水流出抑制策も含め総合的な治水対策の推進に努めています。

##### ● 災害リスクの情報共有

地域内には、水災害リスクの高い地域があります。ハザードマップなどを用いて、市民と浸水の危険性のある地域の情報の共有に努めます。

⑤ まちづくり活動の方針

● ふるさととして将来にわたせるまちづくり

地域に住む人々が小倉地域への愛着を育み、子どもたちに将来胸を張って伝えることができるまちにするため、町内会や各種地元協議会にて文教施設やコミュニティセンターなどを拠点としたまちづくりをめざします。



## 小倉地域 地域づくり基本方針図

### 土地利用の方針

- 良好な住宅地の保全と改善
- 身近で広大なみどりによる落ち着きと潤いのある低層住宅地の形成
- 密集市街地の改善による良好な住宅地の形成
- 地域の「生活拠点」としての機能の充実や魅力の向上
- 同（拠点整備）
- 地域内農地の保全
- 活力ある都市を目指すための新たな産業立地の検討
- 産業立地検討エリア

### 交通の方針

- 利便性の高い交通施設の充実と交通結節機能の強化

  - 交通結節機能の充実
- バスなど公共交通の利用促進

  -
- 地域生活を支える道路網の整備

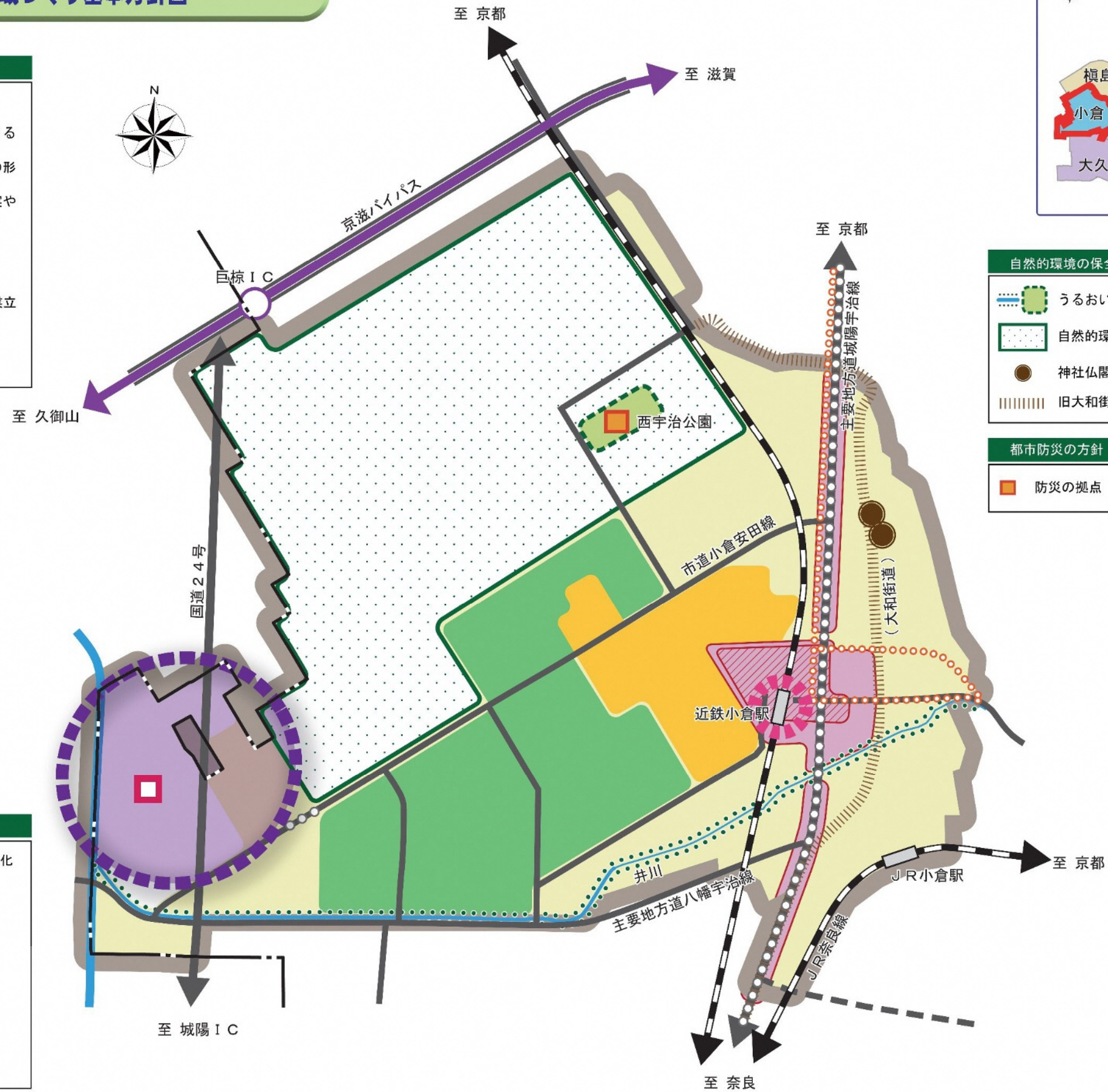
  - 幹線道路の整備
  - 主な道路
  - 計画路線

### 自然的環境の保全および景観形成等の方針

- うらおいがあり安らぎのある場の創出
- 自然的環境の保全
- 神社仏閣の保全や周辺の樹林の保全
- 旧大和街道沿いの歴史的遺産の保全

### 都市防災の方針

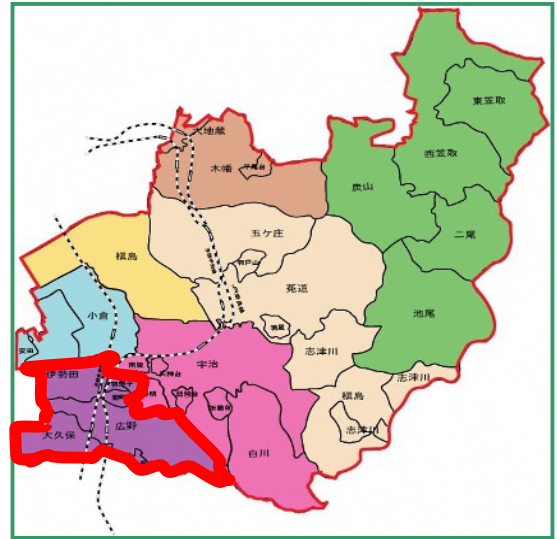
- 防災の拠点





## 6 大久保地域

(大久保町・伊勢田町・広野町  
羽拍子町・開町・寺山台・神明)



### (1) 地域の特徴

#### 大久保エリア

○市の南部に位置し、近鉄大久保駅、JR新田駅および近鉄伊勢田駅があるほか、主要地方道城陽宇治線や主要地方道宇治淀線などの幹線道路が集中しており、城陽市、久御山町をつなぐ交通の要所となっている地域です。

○みどりが多く残る名木川をはじめ、宇治市植物公園、山城総合運動公園、ふれあいの森などがあり、住宅地の近くで身近に自然が楽しめる地域です。



#### 伊勢田エリア

○近鉄伊勢田駅を中心とした、昭和40年前後から形成された市街地で、密集した住宅地が形成されている地域です。



## （２）地域の現状

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">土地利用</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 城陽市、久御山町域と一体的の生活圏を有している地域です。</li> <li>○ 主要地方道城陽宇治線の両側には住宅地が広がり、地域の約 7 割を占めています。</li> <li>○ 鉄道の東側地域には自然や公園、文教施設と低層な住宅地がバランス良く形成されています。</li> <li>○ 住居、商業のニーズが高く、府道沿道（南側）の工業的土地利用が減少傾向しています。</li> <li>○ 市内で唯一工業専用の地域（フェニックスパーク）を設けています。</li> <li>○ 地域内には、近鉄大久保駅の西側の多くが陸上自衛隊大久保駐屯地であり、商業地が同駅を中心に主要地方道城陽宇治線に沿って形成されています。</li> </ul>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">交通</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 身体障害者や高齢者などすべての方が安全に移動できるよう、大久保駅周辺地域バリアフリー基本構想を策定し取組みを進めています。</li> <li>○ 平成 18 年に大久保駅周辺地区整備構想を策定し、当面の取り組みである近鉄大久保駅駅前広場の整備や新宇治淀線の開通、Ｊ新田駅東口新設、東側駅前広場の整備により、快適な歩行空間の確保や交通結節性の向上が図られました。</li> <li>○ 平成 30 年に近鉄伊勢田駅周辺地区交通バリアフリー基本構想を策定し、エレベーターの設置などバリアフリー化が実施されています。</li> </ul>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">公園・緑地、環境、景観</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域内には、みどりが多く残る名木川をはじめ、宇治市植物公園、山城総合運動公園、ふれあいの森などがあり、身近に自然が楽しめます。</li> </ul>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">都市防災</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大久保や伊勢田周辺の旧市街地は道路も狭く防災上も問題が多いです。</li> <li>○ 近年の頻発化、激甚化する水害等により、浸水や土砂災害など災害リスクが高い地域があります。</li> </ul>

## （３）これからの地域づくりの主な課題

<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 工業系の地域においても、住居、商業のニーズが高く、府道沿道（南側）の工業的土地利用が減少傾向であり、近鉄大久保駅西側には広大な陸上自衛隊大久保駐屯地（約 43ha）が位置しており、これ以上の産業集積は困難です。</li> <li>■ 隣接する城陽市、久御山町との連携による一体性や相乗効果による、まちづくりの検討が必要です。</li> <li>■ 隣接した市町と連携したまちづくりを支援する道路ネットワークの検討が必要です。</li> <li>■ 地域内には洪水浸水想定区域などが存在することから、ハザードマップなどによる災害リスクの共有と、既成市街地における防災能力の向上が必要です。</li> </ul>
---

#### （４）これからの地域づくりのテーマ

現状と課題、地域意見を踏まえ地域づくりのテーマを次のように設定します。

##### 大久保エリア

にぎわいのある商業・業務集積空間の形成

鉄道網の利便性を高める都市基盤の充実

地域内の水やみどり、文化・歴史の保全・活用

良好な既存住宅の保全と改善

##### 伊勢田エリア

良好な既存住宅の保全と改善

#### （５）地域づくりの基本方針

地域づくりのテーマを実現していくための基本方針を、各部門において次のように設定します。

##### ① 土地利用の方針

###### 1) 住宅地

###### ●現在の住環境を大切にしながら良好な住宅地の保全と改善

地区計画の活用などにより築いた、現在の住環境を大切にしながら、より快適な住宅地の形成をめざします。

###### ●みどりと文教の薫り高い落ち着いた落ち着きのある低層住宅地の形成

東部の豊かな自然に囲まれ、文教施設が数多く立地することを踏まえ、文教の薫り高い落ち着いた落ち着きのある低層住宅地の形成をめざします。

広野町や寺山台などの背後に緑地が多く見られる台地部では、みどりに囲まれた住宅地の環境を維持しつつ、災害に強く眺望のよい安全・安心できる住宅地としての居住環境づくりに努めます。

また、高齢化の進行等による身近な買物・サービス施設の必要性など市民ニーズの変化に対し、土地利用の方針を踏まえ、立地の妥当性、周辺環境への影響を考慮した総合的な住宅地の形成を検討します。

## 2) 商業・業務地

### ● 宇治市の南の玄関口にふさわしいにぎわいと活力ある都市空間の創出

近鉄大久保駅およびJR新田駅周辺では、交通の利便性を活かした歩いて楽しいまちづくりをめざし、鉄道駅と連携した快適な歩行者空間づくりを検討するとともに、既存商店街の充実などにぎわいを創出することができる土地利用を誘導します。

また、近鉄伊勢田駅周辺では、必要な都市基盤などのあり方を検討するなどして商業活性化の検討を行います。

## 3) 工業地

### ● ものづくり産業拠点の振興

大久保地区地区計画（フェニックスパーク）の区域については、今後も市の主要な「ものづくり産業拠点」として、健全かつ適切な土地利用を行い、産業の振興を図ります。

## 4) 森林地・緑地等

### ● 地域の重要な自然的環境である東部の森林地・緑地の保全

山城総合運動公園や植物公園が位置する東部の森林地・緑地はうらおいのある重要な自然的環境であることから、その活用と保全に努めます。

## ② 交通の方針

### 1) 公共交通

#### ● 各駅周辺における交通結節機能の強化及び鉄道網の利便性向上

地域内の各駅の交通結節点機能について検討することにより、鉄道やバスなどの公共交通の利便性向上と周辺市町のまちづくりと一体となった利用促進を図ります。また、JR奈良線の複線化による定時性確保や保安度の向上を進めます。

### 2) 道路

#### i 幹線道路

#### ● 主要地方道宇治淀線および主要地方道城陽宇治線の整備促進

朝夕の交通渋滞の緩和や安全性向上のため、駅へアクセスする主要地方道宇治淀線および主要地方道城陽宇治線の拡幅など道路整備について引き続き関係機関と協力して進めます。

#### ii その他道路

#### ● 歩行者の安全が確保され、防災的な機能も有する道路網の改善

市道南山蔭田線をはじめ、日常生活に密着している主要な道路については、歩行者の安全性を考慮した整備・改良を検討します。

### ③ 自然的環境の保全および景観形成等の方針

#### 1) 自然的環境

##### ● 良好な緑地の維持・保全

東部の森林地・緑地は市街化調整区域として引き続き自然的土地利用の保全を基本としながら、周辺の美化活動、みどり溢れるオープンスペースの整備など、良好な緑地の維持・保全に努めます。

#### 2) 公園・緑地

##### ● 名木川を中心としたみどり豊かな空間づくり

名木川については貴重なオアシスとして、その河川沿いに散策道を整備しており憩いのある空間の保全に努めます。

また、街路樹の植栽などにより周辺の緑地等とのネットワーク化を図り、みどり豊かな空間の形成をめざします。

##### ● 多様な公園の整備と緑化の推進

山城総合運動公園および植物公園はみどりと交流の拠点として、引き続きその利活用と機能充実を進めるとともに、市街地内にある生産緑地については、保全・活用を図るため、特定生産緑地の指定に努めます。

#### 3) 文化・歴史的遺産

##### ● 史跡や周辺の樹木の保全

庵寺山古墳などの史跡を保全するとともに、圓蔵院や旦椋神社などの神社仏閣についてはその保全や境内周辺の樹木の保全に努めます。また、これらの歴史的遺産や名木百選などを結ぶルート of 整備などにより、貴重な資源の活用を検討します。

#### 4) 景観

##### ● 秩序ある市街地景観の形成

商業地については、建築物や広告物を適正に誘導します。また、住宅地については生垣や敷地内緑化などを推進することにより、個性と魅力あるみどりに囲まれた景観を創出していきます。

##### ● 旧奈良街道・大和街道沿いの景観の保全

旧奈良街道・大和街道沿いのまちなみは、周辺の景観なども含めてその保全に努めます。

### ④ 都市防災の方針

##### ● 浸水に対する防災機能強化

地域内の河川・水路では局地的豪雨などによる浸水被害が課題となっています。特に、名木川・井川などの流域では、雨水流出抑制策も含め災害の軽減に向け総合的な治水対策の推進に努めます。

##### ● 災害リスクの情報共有

地域内には、水災害リスクの高い地域があります。ハザードマップなどを用いて、市民と浸水や土砂災害の危険性のある地域の情報の共有に努めます。

⑤ まちづくり活動の方針

● 個性的で豊かな地域コミュニティの形成

水やみどりの自然と調和する利便性の高いまちづくりのため、文教施設やコミュニティセンターなどの活用により、商業地、工業地をかかえる大久保や住宅地である伊勢田ならではの個性的で豊かな地域コミュニティの形成をめざします。



大久保地域 地域づくり基本方針図



**土地利用の方針**

- 良好な住宅地の保全と改善
- みどりと文教の薫り高い落ち着いたある低層住宅地の形成
- 玄関口にふさわしいにぎわいと活力ある都市空間の創出（駅前広場整備など）
- にぎわいと活力ある都市空間の創出
- ものづくり産業拠点の振興
- 地域の重要な自然的環境である東部の森林地・緑地の保全

**交通の方針**

各駅周辺における交通結節機能の強化及び鉄道網の利便性の向上

- 交通結節機能の充実
- 鉄道網の利便性向上（複線化）
- バスなど公共交通の利用促進
- 地域生活を支える道路網の整備
- 幹線道路の整備
- 主な道路

**都市防災の方針**

- 京都府広域防災活動拠点

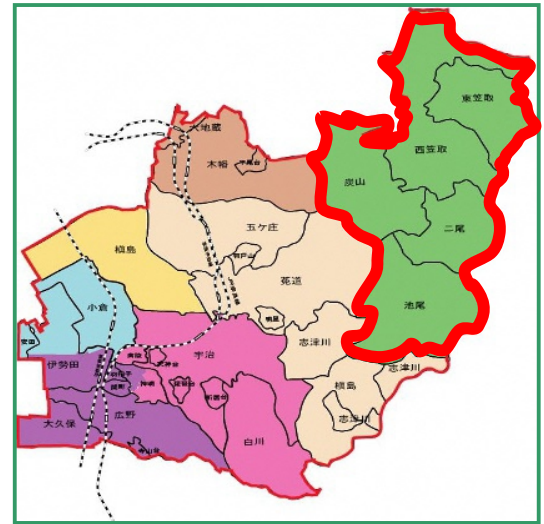
**自然的環境の保全および景観形成等の方針**

- 良好な緑地環境の維持・保全
- 名木川を中心としたみどり豊かな空間づくり
- 多様な公園の整備と緑化の推進
- 史跡や周辺の樹木の保全
- 旧奈良街道・大和街道沿いの歴史的遺産の保全



## 7 山間地域

(炭山・二尾・池尾・東笠取・西笠取)



## (1) 地域の特徴

- 宇治市の北東部に位置し、市域の3分の1を占めています。京都市、大津市、宇治田原町と接し、地域の中央を東西に京滋バイパスが横断しており笠取インターチェンジがあります。
- 山間地域は都市計画区域外の炭山、二尾、池尾、東笠取、西笠取の5地区からなっており、それぞれの地区の特徴を活かし地区ごとにまとまりながら暮らしています。
- 地域の中央には標高370mの笠取山があり、南側には宇治川が流れているなど自然が豊かな地域で、豊かな水とみどりに囲まれた地域です。
- 東笠取では自然農法が取り組まれ、西笠取では自然をふんだんに取り込んだ野外活動センターであるアクトパル宇治があるなど、魅力の発信がされています。
- 炭山は昭和の後半になって京都市内から京焼の伝統を持つ工芸家が相次いで炭山に陶窯を移し、各種の陶器を生む工芸家の集落が形成されており、陶芸等の資源を活用して地域の活性化を図っている地域です。



## （２）地域の現状

<p>土地利用</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 山林が約 9 割を占めており、谷底平野に集落と田畑があります。</li> <li>○ 資材置き場や倉庫などの土地利用が見られるほか、山間部への不法投棄が目につきます。また、汚水が川に流れ込み水質汚濁が進むなど、環境への影響が懸念されています。</li> <li>○ 農業では、畑を猪や鹿などに荒らされるなど、農作物への被害が表面化しています。また、東笠取に農業振興地域があることから、高齢化、人口減少による後継者の問題や今後の土地利用の方向性が課題となっています。</li> </ul>
<p>交通</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 京都市、大津市と宇治田原町に接し、地域の中央を東西に京滋バイパスが横断し、笠取インターチェンジがあります。</li> <li>○ 宇治川沿いには、大津市へ通じる主要地方道大津南郷宇治線と、六地藏方面へ通じる一般府道二尾木幡線があります。</li> <li>○ 地域内には公共交通機関がなく、移動は自動車に依存していますが、炭山地区では助け合い移動支援事業の取り組みが行われています。</li> </ul>
<p>公園、環境、緑地、景観地、</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自然が豊かな地域で豊かな水とみどりに恵まれ、ホタルも多く生息しています。</li> <li>○ アクトパル宇治には、野外活動施設と合わせグラウンドゴルフ場も整備され、多くの域外の市民が訪れています。</li> </ul>
<p>防災</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 京都府南部豪雨災害では、道路や河川の被害、土砂災害により道路すべてが遮断され、ライフラインが寸断され、一時地域が孤立する状態となりました。</li> <li>○ 地域内は大部分が山林で占められており土砂災害の危険性の高い地域があります。ハザードマップなどを用いて、浸水や土砂災害の危険性のある地域の情報の共有が必要です。</li> </ul>

## （３）これからの地域づくりの主な課題

- 人口減少、高齢化が特に進行しており、地域づくりの担い手や魅力の発信が不足しています。
- 社会的ニーズの変化を踏まえ、地域に必要な移動手段を確保するため既存公共交通を基盤とした新たな移動ニーズへの対応が必要です。
- 地域内には土砂災害警戒区域が多数存在することから、ハザードマップなどによる災害リスクの共有と、防災能力の向上が必要です。
- 地域生活を支える道路の安全性の向上が必要です。
- 地域内の児童数が少なく、地域交流の中核である小学校の存続や教育環境の充実が求められています。

#### （４）これからの地域づくりのテーマ

現状と課題、地域意見を踏まえ地域づくりのテーマを次のように設定します。

不法投棄を防止し宇治の誇りである自然の保全

豊かな自然環境と調和した地域振興

安心して住むことができる生活環境の充実

地域内の観光・レクリエーション施設や豊かな自然を活用したまちづくり

将来のまちの姿を共有し、住民によるまちづくり活動の支援

#### （５）地域づくりの基本方針

地域づくりのテーマを実現していくための基本方針を、各部門において次のように設定します。

##### ① 土地利用の方針

##### 1) 山間集落地

##### ● 集落毎のまとまりを大切にした、生活環境の向上

既存の家屋が一定の規模以上ある集落地については集落毎のまとまりを大切にしながら、生活環境の向上を図るために地域間を結ぶ道路などの整備を検討します。また、上水道の統合により安定した水道水の供給が図られましたが、引き続き生活排水処理機能の充実など住環境の向上を図っていきます。

##### 2) 農地

##### ● 優良農地・森林の維持・保全をするために、最適な土地利用を誘導

良好な自然環境が残された農業振興地域内農地および本地域内に多く残されている優良農地や森林は、生産活動の場として引き続きその維持・保全に努めます。

また、担い手の不在による遊休耕地の深刻化などは農林部局との調整を行いつつ、最適な土地利用を誘導します。

##### 3) 森林地・緑地等

##### ● 「山間自然ゾーン」で、緑地・農業を保全

貴重な自然や棚田などの優良な農地が残されている地域を「山間自然ゾーン」と位置づけ、その保全に努めます。

##### ● レクリエーション資源の活用と自然環境を損なわない範囲での整備・活用

市民の散策やレクリエーションの場、そして地域の活性化を図るため、アクトパル宇治、東海自然歩道などの観光・レクリエーション資源や炭山の工芸のいとなみを活用した地域間交流の促進を進めます。

## ② 交通の方針

### 1) 公共交通

#### ● 地域に必要な移動手段確保への支援

地域に必要な移動手段を確保するため、地域住民の主体的な取組みに対して、既存公共交通との整合を図りながら、その運営に関する支援を行います。

### 2) 道路

#### ● 地域生活を支える幹線道路網の充実

自動車利用による生活利便性を高めていくために、一般府道二尾木幡線や主要地方道大津南郷宇治線などの整備・改良を関係機関と協力して進めます。

## ③ 自然的環境の保全および景観形成等の方針

### 1) 自然的環境

#### ● 農地や山地の保全と生活環境の維持・保全

農地や山地などは自然的土地利用の保全を基本としながら、全市民が協力して不法投棄の防止に努めるとともに、良好な生活環境の維持・保全に努めます。

#### ● 宇治川、志津川、笠取川周辺の貴重な自然環境の保全と憩いの空間としての活用

本地域は志津川、笠取川の源流に位置しているため、市民の貴重な資源を確保するとともに、ホタルが生息するなど、貴重な自然環境の保全・育成に努めます。

### 2) 文化・歴史的遺産

#### ● 地域内の神社仏閣の保全

八幡宮本殿（炭山）、称名寺（東笠取）などの神社仏閣の保全に努めます。

### 3) 宇治川周辺の緑地保全

#### ● 地域資源の保全

宇治川周辺は琵琶湖国定公園に指定されており、うるおいのある地域の重要な資源でもあることから、「豊かな自然の象徴を守るエリア」と位置づけ保全していきます。

#### ④ 山間地域の防災の方針

##### ●土砂災害への対応

山間地域は大部分が山林で占められており、土砂災害の危険性が存在しています。土砂災害警戒区域をはじめ土砂災害の危険性がある地域では京都府南部地域豪雨災害でも大きな被害がでており関係機関と連携し、土砂災害対策に努めます。

##### ●災害リスクの情報共有

地域内には、土砂災害のリスクの高い地域があります。ハザードマップなどを用いて、市民と浸水や土砂災害の危険性のある地域とともに、京滋バイパス、府道、市道などそれぞれの管理者を超えた地域アクセス道路の通行状況などの情報の共有に努めます。

#### ⑤ まちづくり活動の方針

##### ●里山の保全活動や交流の活性化の推進

本地域一帯に広がる市民の貴重な財産であり地域の誇りである自然のみどりを、自然環境の保全を実践していく場として、農業の振興、里山の保全、復元、活用に取り組みます。

また、地域内のみならず都市部との交流の活性化を図るため、アクトパル宇治などの公共施設をその交流の場として活用するとともに、炭山の工芸のいとなみなどを活かしたまちづくりを進めます。

##### ●パートナーシップによるまちづくり活動の推進

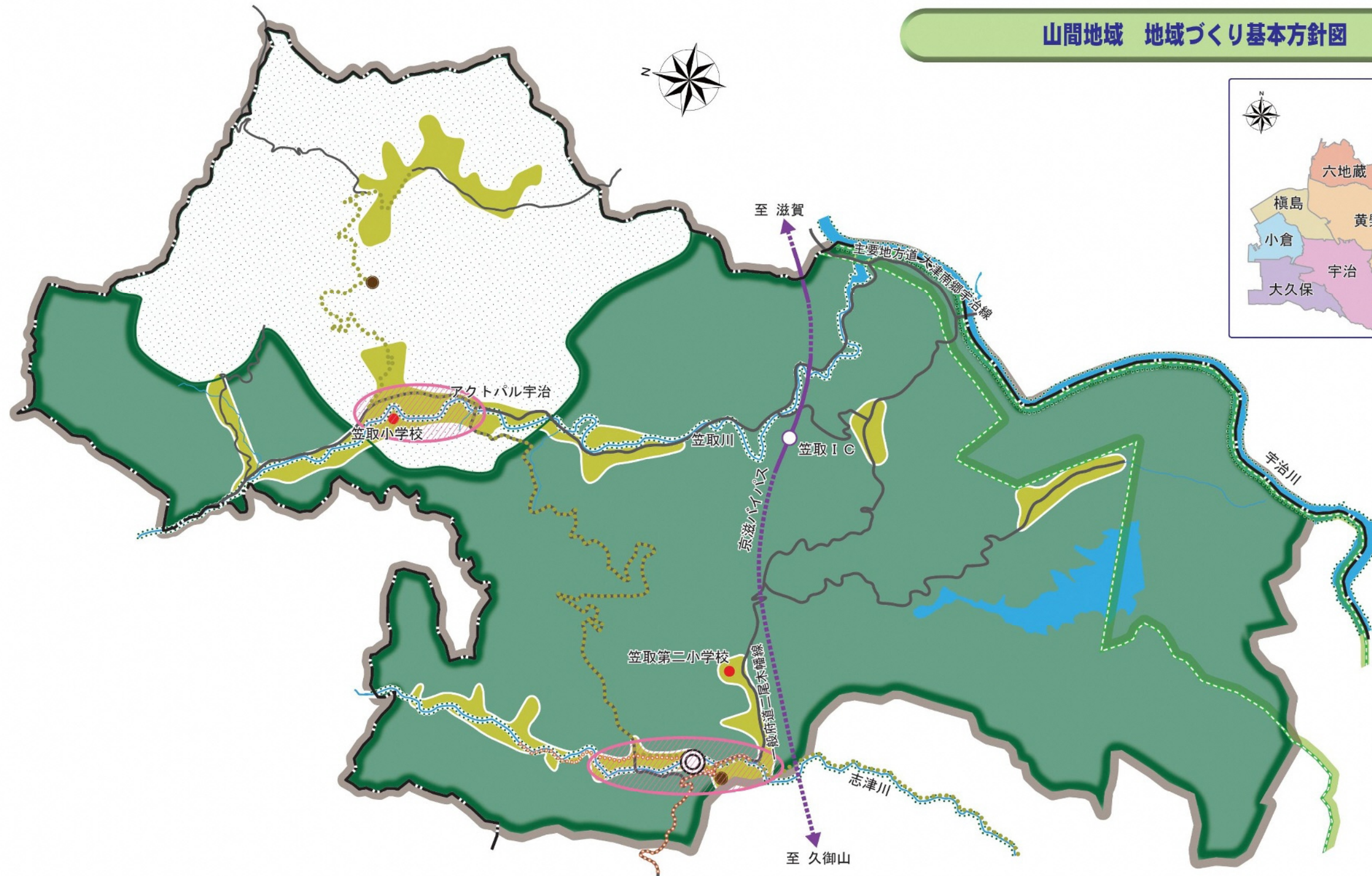
山間地域では人口が少なく、少子高齢化が進んでいるため市民と行政とが連携したまちづくりを進めることが重要です。地域住民によるまちづくり活動として笠取第二小学校区では、地域の活性化と児童数増加に向け、学校とともに親子留学などの取組みを進めています。

また、炭山地区では、すべての人が豊かな自然環境を活かし安心して楽しく住み続けられるまちづくりの実現に向けて取り組んでいます。宇治市では、こうした地域の将来のまちの姿を共有し、住民によるまちづくり活動を支援します。





山間地域 地域づくり基本方針図



**土地利用の方針**

- 集落毎にまとまりを大切に生活環境の向上
- 優良農地・森林の維持・保全
- 山間自然ゾーンとして緑地環境及び農業環境の保全
- 観光・レクリエーション資源の活用と自然環境を損なわない範囲での整備・活用

**交通の方針**

地域に必要な移動手段への支援  
地域生活を支える道路網の充実

- 主な道路
- 地域に必要な移動手段への支援

**自然的環境の保全および景観形成等の方針**

- 農地や山地の保全と生活環境の維持・保全
- 宇治川、志津川、笠取川周辺の貴重な自然環境の保全と憩いの空間としての活用
- 地域内の神社仏閣の保全
- うるおいのある地域資源の保全

**まちづくり活動の方針**

- パートナーシップによるまちづくり活動の推進
- 活動拠点のエリア



## 宇治市都市計画マスタープラン

# 参 考 資 料

1	マスタープラン策定の主な経過.....	127
2	宇治市都市計画マスタープラン検討部会委員名簿.....	129
3	用語集.....	130



# 1 マスタープラン策定の主な経過

年月日	事項	内容
2020（令和2） 7. 20	宇治市都市計画審議会へ 諮問	1. 次期宇治市都市計画マスタープランの策定 2. 部会設置（宇治市都市計画マスタープラン検討部会）
8. 4	第1回検討部会	1. 検討部会について 2. 策定の経緯と検討の主な視点 3. 全体スケジュールについて
9. 7	第2回検討部会	1. 宇治市の地勢について 2. 検証・評価について（全体構想） 3. 課題と方向性について（全体構想）
10. 19	第3回検討部会	1. 宇治市の都市構造について 2. 宇治市の人口等について 3. マスタープランの方向性に必要な項目について
12. 2	第4回検討部会	1. 全体構想（原案）について 2. 市民参画の手法について
2021（令和3） 1. 20	第5回検討部会	1. 全体構想（原案）について 2. 市民参画の手法について
2. 8	宇治市都市計画審議会へ 中間報告	1. 次期宇治市都市計画マスタープランの策定について （中間報告）
3. 11	第6回検討部会	1. 全体構想（原案）について 2. 部門別方針について 3. 市民参画の手法について
4. 15	第7回検討部会	1. 部門別方針（案）について 2. 全体構想（部会案）について 3. 全体構想のパブリックコメント（案）について 4. 地域別構想の進め方について
5. 7	宇治市都市計画審議会へ 中間報告	1. 次期宇治市都市計画マスタープランの策定について
5. 24 ～6. 30	市民意見募集 （パブリックコメント）	全体構想に対する意見募集 意見者数：23人、意見数：92件

年 月 日	事 項	内 容
6. 24	第 8 回検討部会	1. まちづくりの成果について 2. 地域づくりの基本方針（素案）について 3. 地域の特徴及び現状と課題について
7. 19	第 9 回検討部会	1. 全体構想パブリックコメントの結果について 2. 地域別構想（部会原案）について 3. まちづくりオープンハウスについて
8. 23	宇治市都市計画審議会へ 中間報告	1. 次期宇治市都市計画マスタープランの策定について
10. 12 ～11. 11	都市計画まちづくりオー プンハウス&意見交換会	会場参加者数：延べ288名 オンラインアンケート回答者数：10名
12. 8	第 10 回検討部会	1. 地域意見交換の結果について 2. マスタープラン（部会最終案）について 3. 評価・検証（案）について
2022（令和 4） 1. 19	宇治市都市計画審議会よ り答申	1. 次期宇治市都市計画マスタープランの策定について （答申）
2. 10 ～3. 14	市民意見募集 （パブリックコメント）	マスタープラン最終案に対する意見募集 意見者数：19人、意見数：51件
4. 27	宇治市都市計画審議会へ 付議	1. 次期宇治市都市計画マスタープランの策定について （答申）

## 2 宇治市都市計画マスタープラン検討部会委員名簿

(令和 2. 7 委嘱)

氏 名	役 職	摘 要
岡田 憲夫	京都大学 名誉教授	
小出 純子	建築設計事務所 ジェイズ・アトリエ代表	
後藤 正明	(株)シティプランニング 代表取締役	
多々納 裕一	京都大学防災研究所 教授	部 会 長
野田 崇	関西学院大学法学部 教授	
森 正美	京都文教大学総合社会学部 教授	職務代理者
山本 直彦	奈良女子大学研究院 生活環境科学系 准教授	

(五十音順)

#### あ行

##### ●宇治川太閤堤跡

平成 19 年に宇治橋下流の宇治川右岸で発見された遺跡で、豊臣秀吉が命じて造営された宇治川の旧護岸。平成 21 年 7 月に国史跡として指定されている。

##### ●宇治市まちづくり・景観条例

まちづくりへの市民参加、景観の形成及び開発事業の調整に関する基本的事項について定めることにより、良好な居住環境の整備及び景観の形成を図ることを目的として、平成 20 年に施行された宇治市の条例で、正式名称は「宇治市良好な居住環境の整備及び景観の形成を図るためのまちづくりに関する条例」。

##### ●巨椋池干拓田

宇治川、木津川、桂川が合流する大きな水域であったが、度重なる水害に見舞われたため、明治時代の河川改修により河川と切り離され湖となる。

その結果、水の循環機能を失った巨椋池の水質が悪化したことや、良好な農地が不足していた昭和初期の食糧事情により、国内で初の国営干拓事業が行われ、昭和 16 年に干拓田となる。

##### ●オープンスペース

公園・広場・河川など、建物によって覆われていない土地、または敷地内の公共の空気を総称している。

#### か行

##### ●救命救急センター

複数の診療科にわたる重症重篤な患者を含む全ての救急患者に対して、24 時間 365 日体制で高度な救急医療を担う 3 次救急の医療施設。

京都府保健医療計画により、山城北医療圏（宇治市・城陽市・八幡市・京田辺市・久御山町・井手町・宇治田原町）では、宇治徳洲会病院が指定されている。

##### ●緊急輸送道路

災害などの緊急時に重要となる施設など（府総合庁舎、市町村役場、医療施設等）へのアクセス機能を確保するため、広域的な交通機能をもつ高速道路やそれらとネットワークを構成する一般国道などの幹線道路。

京都府地域防災計画により、宇治市域では、京滋バイパス、国道 24 号、主要地方道宇治淀線、主要地方道城陽宇治線などが指定されている。



### ●近郊緑地保全区域

近畿圏の秩序ある発展を図りながら、無秩序な市街化の防止や、住民の健全な心身の保持・増進、公害や災害の防止、文化財や緑地や観光資源等の保全などを目的として、近畿圏の保全区域の整備に関する法律により、国土交通大臣が指定する良好な自然環境を有する緑地の区域。

### ●景観計画

景観を守り育てるため、景観形成の基本方針、建築物や工作物の色彩、デザインを審査する基準を定めたもの。

### ●広域防災活動拠点

大規模災害時の自衛隊、警察、消防など防災関係機関の応援隊の集結や全国からの救援物資の集配など京都府による応急活動の拠点で、京都府地域防災計画に定められている。

京都府南部地域では、山城総合運動公園が指定されている。

### ●交通結節点

鉄道の乗継駅や、鉄道、バス、タクシー、自転車など交通手段をつなぐほか、都市の拠点となる駅前広場のような施設。

### ●コミュニティ道路

歩行者優先で、歩行者や自転車が安全に通行できるように設計された道路。

## さ行

### ●災害拠点病院

大規模災害の発生時における多数の傷病者などの受け入れ拠点施設を担うとともに他の救助・救護機関や地域の病院と連携して広域的な医療支援活動を行う施設。

京都府保健医療計画により、山城北医療圏では、地域災害拠点病院（災害時に医療圏毎の拠点を担う施設）として宇治徳洲会病院、京都岡本記念病院が指定されている。

### ●再生可能エネルギー

有限で枯渇の危険性がある石油・石炭などの化石燃料や原子力と違い、自然現象によって半永久的に得られ、継続して利用できるエネルギーのこと。太陽光・太陽熱・風力・水力・地熱などをエネルギー源としたもので、自然エネルギーとほぼ同義に用いられる。

## ●市街化区域

優先的、計画的に道路・公園などの公共施設の整備を行い、市街化を図るべき区域。一定の基準を満たせば開発行為や建築行為は可能。

## ●市街化調整区域

農林業との調和や、自然環境の保全などの観点から市街化を抑制すべき区域。一部の例外を除いて開発行為や建築行為は禁止されている。

## ●重要文化的景観

「文化的景観」とは人々の生活や生業と自然風土が時の流れの中で調和し、形作られてきた風景のことで、平成 16 年の文化財保護法改正により、新たに制度が創設されており、特に重要なものを国が「重要文化的景観」として選定する。平成 21 年 2 月には、宇治橋周辺の自然・文化遺産と宇治茶の伝統文化が息づくまちなみが、都市として初めて重要文化的景観に選定されている。

## ●循環型社会

有限な資源の永久性を確保するため、大量生産・大量消費・大量廃棄の社会のあり方を根本から見直し、人間の生活や企業活動などに伴い発生・消費される物やエネルギーなど、あらゆるものを資源として循環し、さまざまな形で繰り返し利用するとともに、廃棄するものを最小限とすることで、環境への負荷を可能な限り低減した社会のこと。

狭義には、廃棄物の発生を抑制し、再使用・リサイクルが促進されることで天然資源の消費を抑制して、環境への負荷ができる限り低減される社会をいう。

## ●生産緑地

都市計画法、生産緑地法に基づく地域地区の一種。市街化区域内の農地などのうち、良好な生活環境の確保に効果があり、公園・緑地など公共施設などの敷地に適している土地を生産緑地地区と指定することにより、農林業との調整を図りつつ良好な都市環境の形成に資することを目的として定めるもの。

## ●世界遺産

1972 年のユネスコ総会で採択された「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約(世界遺産条約)」に基づいて、締結国の文化財や自然環境などの中から、人類共通の財産として保護し、後世に伝えていくため、世界遺産リストに登録されたもの。

本市では、平等院、宇治上神社が登録されている。

**た行**

## ●第4次産業革命

ビッグデータやAI(コンピューターによる高度な知的作業や判断をするシステム。人工知能。)を活用して生産等を自動化・最適化する4番目の産業革命。

## ●脱炭素社会

地球温暖化の原因と考えられる二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする社会。

## ●地区計画

地区の特性に応じ、公園、道路などの地区施設の配置・規模、建築物の用途、敷地、形態などの制限など、良好な都市環境の維持・形成をめざす制度。関係権利者の意見を反映させながら計画案をつくり、市町村が都市計画の一つとして決定する。

## ●地区まちづくり計画

地区まちづくり協議会が、それぞれの地区の目的とするまちづくりを実現するために、独自に定める計画。定められた計画は、市の認定を受けた後に公表され、事業者にも協力を求めていく。

## ●特定生産緑地

都市農地を計画的に保全し、良好な都市環境の形成に資するため、生産緑地法の改正により新たに制度が創設された。生産緑地の指定から30年を迎えるより前に、所有者等の申請により買取り申出ができる期限を10年延期するもの。

## ●都市型居住

単に居住する場を確保するのではなく、そこに交通、商業・医療・福祉など都市生活に求められる暮らしのサポート機能が備えられ、在宅勤務など多様なライフスタイルが展開できる都市における居住形態。

## ●都市機能

都市での人々の活動を支える様々な機能(医療・福祉、子育て支援、商業など)の総称。

## ●都市計画区域

市町村の中心の市街地を含み、かつ、自然的・社会的条件、人口・土地利用・交通量などの現況・推移を勘案して、一体の都市として総合的に整備、開発または保全する必要がある区域。

## ●都市計画区域マスタープラン

京都府が広域的見地から、市街化区域と市街化調整区域の区分をはじめとした都市計画の基本的な方針を定めるもの。

宇治市、城陽市、久御山町、井手町域を宇治都市計画区域として定めている。

## ●都市計画道路

まちづくりの骨格であり、多様な都市活動を支えるうえで必要な道路。

都市計画において定められる都市施設の一つで、自動車専用道路、幹線街路などの種別がある。

## ●都市施設

道路、公園、下水道など、都市の骨格を形成し、円滑な都市活動を確保し、良好な都市環境を保持するための施設の総称。

## な行

### ●農業振興地域

農業振興地域の整備に関する法律に基づき、農業の振興が必要であるとされる地域。

### ●農用地区域

農業振興地域の内、宇治市が農業振興地域整備計画の農用地利用計画において定める「農用地等として利用すべき土地の区域」のこと。

## は行

### ●ハザードマップ

地震、水害など自然災害に対して、被害が予測される区域および避難地等が記載されている地図。

### ●パートナーシップ

協力関係・共同のこと。ここでは、まちづくりを担う市・市民・事業者が、対等な立場で協力・連携し、責任や役割を自覚することを通じて築いていく相互の信頼関係を指す。

### ●バリアフリー

道路の段差など日常生活でのバリアをなくし、障害者や高齢者など関係なく誰もが自由に社会参加できるような環境のこと。

### ●琵琶湖国定公園

琵琶湖を中心に、京都府、滋賀県に広がる国定公園。

本市域には、「宇治川沿岸地区」の一部が含まれており、天ヶ瀬のダイ

ナミックな景観を経て山城平野に流れ出るまでの清流と沿岸の山々が指定されている。

#### ●福祉避難所

災害時において高齢者、障害者、妊産婦等が避難生活をするために特別の配慮がなされた避難所。

#### ●風致地区

都市としての風致を維持するため、特に、自然的景観の維持に重点をおき、条例で建築、土地造成などに規制をする地区。

### や行

#### ●ユニバーサルデザイン

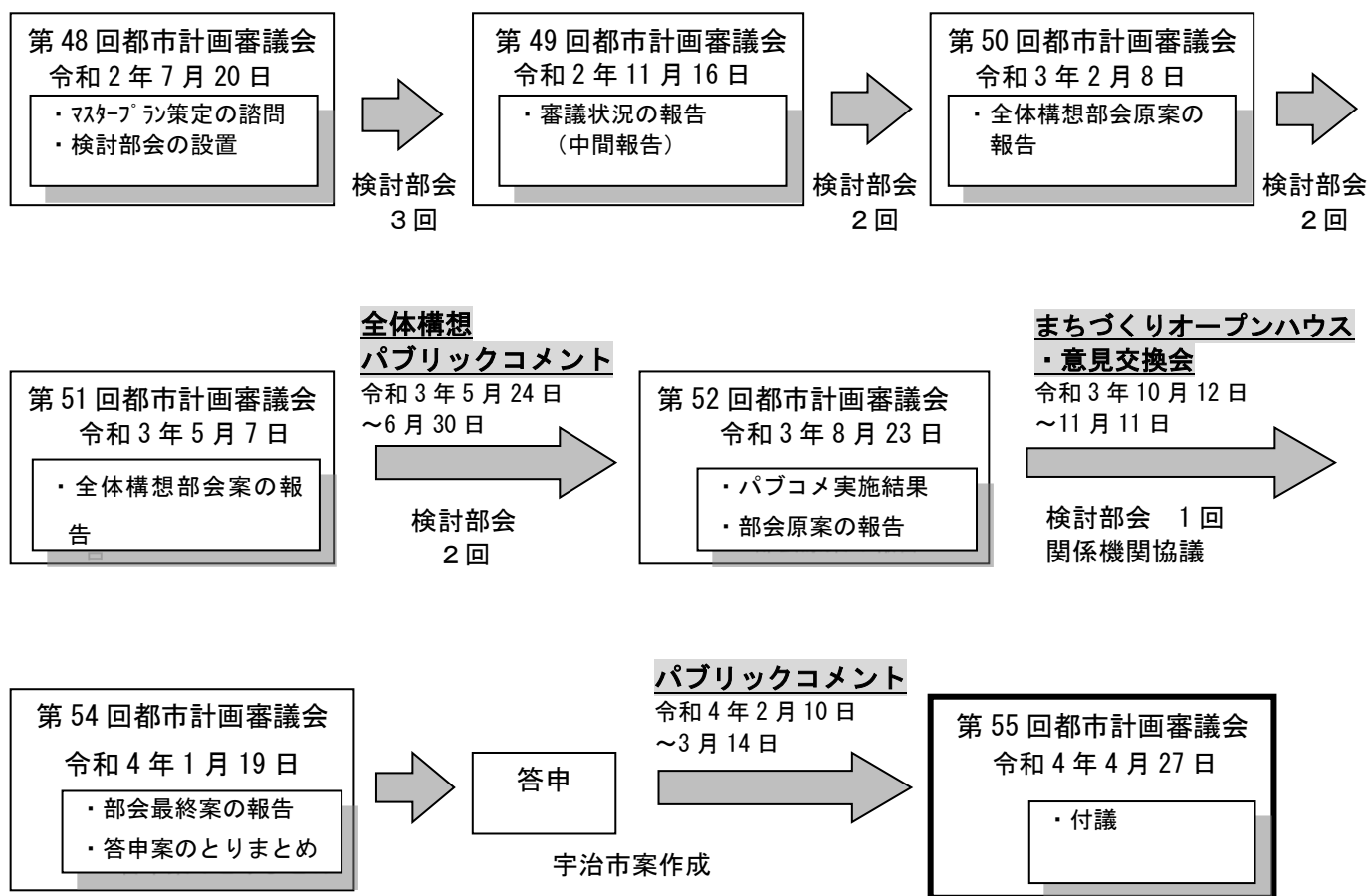
すべての人が使いやすいデザインのことをいう。バリアフリーを一步進めて障害者や高齢者といった区分ではなく、誰にでも使いやすいデザインをめざす。

#### ●ワークショップ

作業場、研修場の意味であるが、都市計画やまちづくりの分野では地域にかかわる諸問題に対応するために、さまざまな立場の参加者が経験交流や共同作業などを通じて、地域の課題発見、創造的な解決策の考察、それらの評価などを行っていく活動を指す。



## 【1】マスタープラン策定の経過について



## 【2】パブリックコメントの実施結果について

### ●実施期間

- 令和4年2月10日(木)から令和4年3月14日(月)まで

### ●周知方法

- 市政だより、ホームページへの掲載、公共施設への資料配架

### ●提出された意見

- 提出者数：19人
- 意見数：51件

### ●意見の概要と宇治市の考え方

- [参考資料2](#) 次期「宇治市都市計画マスタープラン(素案)」に関するパブリックコメントの意見概要及び市の考え方について

### 【3】答申案からの変更点について

NO	新（最終案）	旧（答申案）	備考
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・右側ページにインデックス追加</li> <li>・参考資料（策定経過・委員名簿・用語集）の追記 など</li> </ul>		体裁修正
2	<p>【全体構想：p58】  <u>快適な市民生活を生み出すための処理施設の整備を進めます</u>  <u>循環型社会</u>をめざして、市、市民及び事業者はそれぞれの役割分担を明確にして、ごみの減量化やリサイクルなどに取り組む一方、環境負荷を最小限にとどめるために今までよりも高水準の処理方法の検討を進めます。</p>	<p>快適な市民生活を生み出すための処理施設の整備を進めます  <u>資源循環型社会</u>をめざして、市、市民及び事業者はそれぞれの役割分担を明確にして、ごみの減量化やリサイクルなどに取り組む一方、環境負荷を最小限にとどめるために今までよりも高水準の処理方法の検討を進めます。</p>	文言修正
3	<p>【地域別構想：p95】 榎島地域            (1) 地域の特徴            医療・福祉施設等整備促進エリアには、<u>地域医療の充実と災害時の対応強化のため、救急・高度医療施設や福祉施設などのさらなる充実をめざす地域です。</u></p>	<p>医療・福祉施設等整備促進エリアを<u>設け災害拠点施設としての、地域医療の充実、災害時を進めており、</u>救急・高度医療施設や福祉施設などのさらなる充実をめざす地域です。</p>	文言修正
4	<p>【地域別構想：p104】 小倉地域            (3) これからの地域づくりの主な課題            近鉄小倉駅周辺地区まちづくり基本構想<u>では、まちが持つ様々な特徴を活かしたまちづくりを多くの方が望まれていることから、今あるまちの良さを活かした上で、新たな視点を加えた持続・発展するまちづくりを目指します。</u></p>	<p>近鉄小倉駅周辺地区まちづくり基本構想（<u>令和3年度策定予定</u>）では、まちが持つ様々な特徴を活かしたまちづくりを多くの方が望まれていることから、今あるまちの良さを活かした上で、新たな視点を加えた持続・発展するまちづくりを<u>目指す必要があります。</u></p>	時点修正
5	<p>【地域別構想：p112】 大久保地域            (2) 地域の現状 交通            平成30年に近鉄伊勢田駅周辺地区交通バリアフリー基本構想を策定し、エレベーターの設置などバリアフリー化が<u>実施されています。</u></p>	<p>平成30年に近鉄伊勢田駅周辺地区交通バリアフリー基本構想を策定し、エレベーターの設置などバリアフリー化を<u>行いました。</u></p>	文言修正
6	<p>【地域別構想：p121】 山間地域            土地利用の方針 3) 森林地・緑地等            レクリエーション資源の活用と自然環境を損なわない範囲での整備・活用            市民の散策やレクリエーションの場、そして地域の活性化を図るため、アクトパル宇治、<u>東海自然歩道</u>などの観光・レクリエーション資源や<u>炭山の工芸のいとなみ</u>を活用した地域間交流の促進を進めます。</p>	<p>土地利用の方針 3) 森林地・緑地等            レクリエーション資源の活用と自然環境を損なわない範囲での整備・活用            市民の散策やレクリエーションの場、そして地域の活性化を図るため、アクトパル宇治、<u>炭山工芸の里や東海自然歩道</u>などの観光・レクリエーション資源<u>を活用した地域間交流の促進を進めます。</u></p>	パブリックコメント意見により文言修正 参考資料2 (p14) No.36～No.40
7	<p>【地域別構想：p123】 山間地域            まちづくり活動の方針            里山の保全活動や交流の活性化の推進            本地域一帯に広がる市民の貴重な財産であり地域の誇りである自然のみどりを、自然環境の保全を実践していく場として、農業の振興、里山の保全、復元、活用に取り組みます。<u>また、地域内のみならず都市部との交流の活性化を図るため、アクトパル宇治などの公共施設をその交流の場として活用するとともに、炭山の工芸のいとなみなどを活かしたまちづくりを進めます。</u></p>	<p>まちづくり活動の方針            里山の保全活動や交流の活性化の推進            本地域一帯に広がる市民の貴重な財産であり地域の誇りである自然のみどりを、自然環境の保全を実践していく場として、農業の振興、里山の保全、復元、活用に取り組み<u>るとともに、地域内のみならず都市部との交流の活性化を誘導します。そのため、アクトパル宇治などの公共施設と炭山工芸の里をその交流の場としてまちづくりを進めます。</u></p>	パブリックコメント意見により文言修正 参考資料2 (p14) No.36～No.40



## 次期「宇治市都市計画マスタープラン（素案）」に関するパブリックコメント意見概要及び市の考え方について

1. 意見募集期間：令和4年2月10日（木）～令和4年3月14日（月）

2. 意見提出者数 19人

	人数
持参	11人
郵便	2人
ファクシミリ	3人
電子メール	2人
市民の声投書箱	1人

3. 意見数 51件

	件数
都市づくりの基本理念と基本目標について	16件
部門別方針について	7件
交通網について	3件
地域別構想について	17件
その他	8件

1人で複数の意見を提出された方がいるため、提出者数と意見数の合計は一致しません。

4. 意見の概要及び宇治市の考え方

No	意見の概要	宇治市の考え方	修正の有無
<b>都市づくりの基本理念と基本目標について</b>			
1	<p>住みやすさは大型商業施設の撤退による町の日々の暮らしの魅力の減少、バスの減便、教育、公共料金などえられる市には課題が多いと考えます。            (施設更新の費用は確保できているのでしょうか)            (人口減少で税収は減るのに時代に逆行)</p>	<p>都市づくりの基本目標その2「多様な住まい方・働き方を支える都市づくり」(p31)でもお示ししております通り、人口減少局面において、今ある資源を効果的に活かし、合せて強化を図ることで必要な活力を生みだし、生活利便性の維持向上による質の高い都市づくりをめざします。</p>	無
2	<p>産業については賛否があるが物流センターなど現代的な産業の誘致は伏見区、城陽市、久御山町、京田辺市に完全に先行されており、京都京阪バスなど市外へ出ていく企業も多い。</p>	<p>多くの雇用を生んでいる市内製造業の施設増設・拡張及び新たな事業所の受け入れが、用地不足から十分出来ていない状況です。新たな工業用地の確保は、こうした企業への支援をはじめとした多様な働く場の創出であり、市の誘導に基づき、民間活力による立地・整備を進めるものです。</p>	無
3	<p>宇治らしさについては平等院や万福寺や宇治茶、お店などに魅力を感じるものであり歴史公園や植物公園などのハコものに魅力を感じて来られるわけではなく来場者も少ない。(人口減少で税収は減るのに時代に逆行)            これらを建設、維持するコストは非常に大きく税金は住民サービスの前に市民が納付していることを宇治市がまったく理解できていないことの証であると感じます。(良いex. 伊勢市、川越市)            市の組織の簡略化で柔軟でマルチタスクに考え実行できる改革も必要です。</p>	<p>都市づくりの基本理念でもお示ししております通り、地域と地域が連携・補完し、まちの資源を共有することで、人を結びつなげる都市づくりを進めるとともに、「宇治」の恵まれた自然・歴史的遺産・伝承文化を未来に継承・発展させ、新しい宇治の魅力を創出し発信していくことで、市民・事業者とともに新たな宇治の良さを生み出していくことを目指します。            ご意見を今後の参考とさせていただくため、関係部署と情報共有を図ります。</p>	無
4	<p>都市計画の視点では住民の福祉の増進と切り離された都市計画となっている。地方自治の本旨は住民の福祉の増進であり市や事業者が市民と対等などは論外。市は主権者である市民の福祉の増進を実現するための公僕であり、事業者はその目的のために活用され、その目的と対立する場合は制限をうけるものである。そのために、市は事業者に対する権限が与えられているのである。どこをむいて行政を行うのか。</p>	<p>ご意見のとおり、地方公共団体は、住民の福祉の増進を図ることを基本として、地域における行政を自主的かつ総合的に実施する役割を広く担うものです。都市計画は、都市生活に必要な住宅や商業といった土地の使い方や、道路、下水道、公園などの都市施設について総合的かつ一体的に計画することで都市の発展を計画的に誘導し、これらの活動が安全で快適かつ機能的に行えるようにするための計画です。マスタープランは、都市計画に関する基本的な方針を示しています。</p>	無

5	<p>現状の交通網や施設・工業・商店等の存在をもとにいくつかの都市機能を拠点として地域に割り当てるといった構成になっている。現状の分析が皆無のため現状の肯定を行うにとどまり、抽象的・総花的な方向性が全市でも地域でも並べられるにすぎない。市や地域の真の課題がつかまれておらず政策立案につながらない無駄な計画。市民の暮らし、なりわいを深く知り、市や地域の課題をつかまないと有効な政策は立案できない。</p>	<p>都市計画マスタープランは、都市計画に関する基本的な方針を示すものです。</p> <p>都市計画マスタープランの策定過程の資料については、市のHPに掲載しております。</p> <p>本計画は、現時点で考えられる最善の計画として策定しましたが、今後の社会経済情勢の変化により、新たな課題や市民ニーズへの対応が必要となることも予想されます。</p>	無
6	<p>昨年のマスタープラン意見交換会で「今までの計画について、そのつど検証をしてくれなかった」との発言があり驚きました。つまりこの計画は「作っただけ」。地域の意見は「聞いただけ」だった、の反省の弁です。次期計画では強く改善を求めます。</p>	<p>今後、そのような社会情勢の変化に対応できるように、本市の最上位計画である総合計画の総括・検証の時期と合わせて、随時見直しや定期見直しを行うなど、変化に適応できる都市計画プロセスを進めていきます。</p>	無
7	<p>単純な文言の間違いが起こる原因はどこにあるのでしょうか。山間地意見交換会の終わりに検討部会委員の発言がありましたが、「計画がどこまでできているのか随時確認してほしい」が抜けていたのでしょうか。山間地のこれまでの総括を見える化し、素案には総括を踏まえた方針をしっかりと記述してください。</p>		無
8	<p>炭山から出されている要求書に対してのマスタープラン（素案）を読んでみましても、なんら進展は見られずがっかりします。「努力します、努めます」の一言で締めくくられています。行政として、本気で取り組む姿勢が見られません。今回こそ努力した結果を見せてください。私たちも年々高齢化してきて来て要求が変化してきています。しかし働きざかり子育て中の若い人たち、子供たちが炭山の地でも安心して生活の不安もなく住み続ける事が私たちの願いです。ねがわくば炭山の地に小規模の多機能の高齢者施設を建ててほしいです。永く住み暮らしてきた土地で安心して老後も過ごせる人とのつながりを大切に行政をお願いします。住民一人一人の思いを聞き実現させるのが行政の仕事だと考えます。</p>	<p>都市計画マスタープランは、都市計画に関する基本的な方針を示すものです。</p> <p>ご意見のとおり、高齢化等によるニーズの変化など、今後の社会経済情勢の変化により、新たな課題や市民ニーズへの対応が必要となることも予想されます。</p> <p>今後、そのような社会情勢の変化に対応できるように、本市の最上位計画である総合計画の総括・検証の時期と合わせて、随時見直しや定期見直しを行うなど、変化に適応できる都市計画プロセスを進めていきます。</p>	無

9	<p>魅力ある未来の宇治づくり はじめに これからの宇治を思うとき、その目指す姿は次のキーワード4つを前面に出し前進することで、持続可能なまちづくりになっていくと思います。</p> <p>(キーワード) (まちづくりの方向性)</p> <p>特有の宇治らしさ お茶と文化、歴史、自然が調和するまち、宇治のお茶・・・世界に発信</p> <p>楽しさ 住んでよかったと思えるようなまち</p> <p>温かさ 福祉のまちづくりの推進 誰もが生き生きと安心して暮らしやすい社会づくり。特に人権尊重に向けた取り組みがだいじ</p> <p>ユニークさ 近年、地方都市は「まちなか」のにぎわいが失われつつある。そんな中、宇治市では新しいビジネスで、活気あるまちをめざす(「変異する京都」p52～60を参照してください。)</p> <p>最後に、上記の～を重要な目標と位置づけ、時代の変化に対応して見直していただければ良いと思います。</p>	<p>「魅力ある未来の宇治づくり」として、都市づくりの基本理念(p27)として、今回新たに設定いたしました「ともに築く 魅力ある未来への都市」と方向性は同じと認識しております。</p> <p>また、キーワードと合わせて、まちづくりの方向性をご提案頂きありがとうございました。ご提案頂きました内容につきまして、マスタープランでは、下記のとおり考えております。</p> <p>「特有の宇治らしさ」については、基本目標そのの「宇治らしさを活かした選ばれる都市づくり」(p30)で、豊かな自然環境や歴史的遺産など宇治らしさを活かしたまちづくりを進めるとしております。</p> <p>「楽しさ」で「住んでよかったと思えるようなまち」については、基本目標その「多様な住まい方・働き方を支える都市づくり」(p31)において、市民一人ひとりが快適に住み、働くことができる都市づくりを進めます。</p> <p>「温かさ」については、土地の使い方という観点から、土地利用の基本的方針(p50)において、すべての人が安全・安心して快適な暮らしができる住環境の形成や、すべての人が集い、にぎわいと交流を生み出す快適な都市空間を創出します。</p> <p>「ユニークさ」の、活気あるまちづくりに関しては、特に豊かで快適に暮らせる都市の形成を進める市街地ゾーン(p34)において、商業機能、日常生活サービス機能や新しい都市機能を集積させることによるにぎわいの創出に努めます。</p> <p>本計画は、現時点で考えられる最善の計画として策定しましたが、今後の社会経済情勢の変化により、新たな課題や市民ニーズへの対応が必要となることも予想されます。そのような社会情勢の変化に対応できる都市づくりを進めてまいります。</p>	無
---	---	---	---

10	<p>人々の生活様式が変化していることを踏まえて、駅付近に高層マンションを建てて人を集める街づくりを行う必要があると考えます。宇治市は京都市営地下鉄、京阪、近鉄、JR 奈良線の 4 路線が利用可能な都市です。鉄道の利便性を生かした街づくりを行うべきです。物流拠点の久御山や新名神が開通予定で近畿の物流拠点になりうる城陽より鉄道インフラが充実しているため、同じような戦略では間違いなく負けてしまいます。宇治市は駅周辺に人を集めて活性化を図らないといけないのでは。最近発展している滋賀県の草津市にある草津駅、南草津駅付近は大型マンションが多数あり若い人が多く、賑わいがあります。草津市を参考にすべきでは。</p>	<p>これからの都市計画の視点（p27）に人口減少・少子高齢社会が進行する中、まずは公共交通をはじめとしてみちの資源を共有することで市民が享受できる都市のサービスの質を確保・向上させていくことを定めており、頂いたご意見は今後の具体的な事業推進にあたって参考にさせていただきます。</p> <p>また、他自治体の事例を参考にし施策展開を行うことは、非常に重要であると考えておりますので、頂いたご意見は今後の参考とさせていただきます。</p>	無
11	<p>産業のゾーニングに関しては、高速道路に近いエリアは物流、槇島は工場、駅に近いエリアは小売業やサービス業といった第三次産業の会社を集積させるべきです。</p>	<p>ご意見の産業のゾーニングに関しては、「ものづくり産業拠点」（p43）の通り、マスタープランでは以下のように設定しております。</p> <p>地元産業の振興を図るため、高速道路への近接性を活かした流通産業の立地を促進するほか、既存産業の技術の高度化や研究開発・情報通信をはじめとするIT産業などの新たな産業を育成するものづくり産業拠点を形成します。</p> <p>高速道路や幹線道路などの自動車交通の利便性の高い槇島・大久保地区および宇治地区をものづくり産業拠点と位置づけます。</p> <p>また、将来にわたって持続発展できる強い市内産業をつくり、定住人口につながる多様な働く場を創出するため新たな産業立地エリアの検討を進めます。</p>	無
12	<p>今後延伸されるリニアや北陸新幹線を考慮するとパワーバランスが山城北から山城南エリアに移るのは確実であるため、それらが延伸される前に住みたい街”宇治”を作り上げないといけないのでは。京都市は日本の文化首都であるが、新しいものを積極的に取り入れる姿勢を見せています。宇治市も新しいものを積極的に取り入れた方がいいのでは。</p>	<p>総合計画では、お茶、歴史、文化など、これまでの引き継がれてきた宇治市の良さを継承しながら、それぞれの新たなチャレンジを応援することにより、宇治市の新たな魅力を創出することで、これまで以上に誇りと愛着を感じることでできる宇治のまちを創出するため、「一人ひとりが輝き 伝統と新たな息吹を紡ぐまち・宇治」を目指す都市像としています。マスタープランにおいても「宇治」の恵まれた自然・歴史的遺産・伝承文化を未来に継承・発展させ、新しい宇治の魅力を創出し発信していくことで、市民・事業者とともに新たな宇治の良さを生み出していくことを目指すため、「ともに築く 魅力ある未来への都市」を、都市づくりの基本理念（p27）として、今回新たに設定し、今後のまちづくりを進めていきます。</p>	無

13	<p>宇治市が地域ごとに都市計画を検討されているのは良くわかりますが、宇治市を1つの街としてとらえる視点が欠けていると思います。外から見た時に、宇治市はどのような街なのか？という考えで宇治市の都市計画を考えるべきだと思います。歴史的建造物を有する観光地であり、伝統産業の宇治茶生産を支える茶畑など自然環境に恵まれた豊かな森林資源。一方で、街として人口が減り続ける現実を考えると、住宅地としての魅力が失われつつあるのか？ならば新しい産業を生み出す魅力が自治体としてあるのか？</p> <p>私は20年近くドイツに住んだ経験がありますが、産業国家としてのドイツでも、それぞれの自治体が自分たちの現状を冷静に見極めて、産業を伸ばす事に力を入れたり、産業基盤が弱い場合は、観光を街の発展の基礎に据えたりとそれぞれの自治体が考えて、その上で都市計画を考えていると感じました。</p> <p>私は、恵まれた自然と歴史的遺産を活用して宇治市は観光を中心とした都市計画のマスタープランを作成すべきと考えます。</p>	<p>都市計画マスタープランの全体構想では、目指す将来都市構造の実現に向け、都市づくりの基本目標として、豊かな自然環境や歴史的遺産など宇治らしさを活かしたまちづくりを進めるため、“宇治らしさを活かした選ばれる都市づくり”、市民一人ひとりが快適に住み、働くことができる都市づくりを進めるため、“多様な住まい方・働き方を支える都市づくり”、災害リスクの情報を共有したうえで防災・減災対策を実施し、多様な災害リスクと共存しながら安全で安心して住み続けられる都市づくりをめざすため、“総合的に災害リスクに対応できる都市づくり”、都市機能の充実した地域から自然が豊かな地域までそれぞれの個性を活かした上で、相互に補完し合いながら、今あるネットワークや資源を有効に共有し、文化・歴史・風土などの地域特性を踏まえた都市づくりをめざすため“地域と地域が相互に連携し支え合う都市づくり”と4つの基本目標を設定しています。ご提案の内容と方向性は同じと認識しており、頂いたご意見を今後のまちづくりの参考とさせていただくため、関係部署と情報共有を図ります。</p>	無
14	<p>「これからの都市計画の視点 パートナーシップ(市・市民・事業者)による都市づくり」について。昨年8月末に市長が西小倉地域小中一貫校の開校場所を地元の同意なく発表し、自治連合会が抗議しました。私は開校準備協議会も傍聴しており、事実は洛タイ新報で報じられた通りです。これはパートナーシップとは真逆のことではないでしょうか？私は、相手をリスペクトすることがパートナーシップの土台だと考えます。説明図では、市民は地域に関心を持つように努める、まちづくりに参加、協力するように努めると書かれていますが、市の上から目線を感じます。市は「市民等によるまちづくりへの自主性、自立性を尊重する」ではなく「尊重しなければならない」のだと強く思います。</p>	<p>「これからの都市計画の視点 パートナーシップ(市・市民・事業者)による都市づくり」について、市民、事業者、市が宇治のまちづくりに関する情報を共有し、協働して、良好な居住環境の整備と景観の形成を図るために策定した「宇治市まちづくり・景観条例」の考え方をベースとして、都市計画マスタープランの説明図にも、市・市民・事業者それぞれの役割を記載しております。</p> <p>頂いたご意見を今後のまちづくりの参考とさせていただくため、関係部署と情報共有を図ります。</p>	無
15	<p>全体構想の公共交通(p20)に宇治市は「公共交通に恵まれた環境です」とある。公共交通がない約1割の現状も記述すべきである。</p>	<p>都市計画マスタープランは、都市計画に関する基本的な方針を示すものです。</p>	無
16	<p>No.12のような現状認識から方針がたてられているからか、公共交通の方針図(p50)の山間地域は真っ白(何もなし)である。市は山間地など約1割を例えば“生活交通特別対策区域”とするなど、公共交通空白地に対してきちんとした方針を持つべきである。</p>	<p>山間地域の交通の方針(p122)については、「地域に必要な移動手段確保への支援」としてあります。</p>	無

## 部門別方針について

17	<p>移動スーパーによる高齢者の買い物支援ネットワークの構築          高齢になると徒歩範囲内（徒歩で10分以内）に買い物できる場所がないと高齢者にとって住みにくい街となります。          徒歩圏内で高齢者が買い物をできるように、民間企業の移動スーパーを活用して、買い物支援移動スーパーネットワークを宇治市全域に構築することができれば、買い物難民問題を解決し高齢者になっても安心して生活できる魅力ある街づくりが可能となると考えます。          移動スーパーは、ネット注文や生協の個配とは違い、実際に品物をみて買い物ができるのが高齢者にとって最大の魅力です。また、移動スーパーに集まったお客さん同士の会話や交流、また移動スーパーの店員による地域高齢者の見守りが行える複利的な利点もあります。          これで一つ課題になるのは移動スーパーが買い物中に停車する場所問題です。          宇治市は細い道や坂道も多く、移動スーパーが停車することが困難なケースが出てきます。そこで、誰もが認識している町内の公園を移動スーパーの停車場所とすることで、場所問題の解決、または買い物支援移動スーパーネットワークの市民への広報や普及にも役立つと考えます。さらに公園なので、お客さん同士で買い物後も会話や交流が可能です。          奈良市は買い物支援ネットワークチームを立ち上げ、移動スーパーと公園の有効活用にて買い物支援ネットワークを構築されており参考になると思います。          実際に宇治市地域包括支援センターの地域の課題を掘り起こす小地域ケア会議では、買い物難民問題、移動スーパーの場所問題が課題として立ち上がっています。場所問題に関しては宇治市公園緑地課が公園の移動スーパーの立ち入りを認めないとの回答があった為、奈良市のように買い物支援ネットワーク構築のための公園活用は話が進まないのが現状です。</p>	<p>高齢化により買い物難民が増えているなど日常生活サービス施設へのアクセスを懸念する声は、オープンハウスや意見交換会の中でも、様々な地域でご意見を頂いたところです。          都市計画マスタープランでは、六地藏地域、黄檗地域、宇治地域、大久保地域で、郊外（丘陵地）のライフスタイルの変化を踏まえ、地域別構想の住宅地の土地利用の方針において、高齢化の進行等による身近な買物・サービス施設の必要性など市民ニーズの変化に対し、土地利用の方針を踏まえ、立地の妥当性、周辺環境への影響を考慮した総合的な住宅地の形成を検討しますとしています。          頂いたご意見を今後のまちづくりの参考とさせていただくため、関係部署と情報共有を図ります。</p>	無
----	--	--	---

18	<p>防犯、災害については避難施設の現地、誘導表示、防犯カメラが少ない。市道など狭く、子供や高齢者などが危険。</p>	<p>ご意見の災害時の避難経路や道路の安全性に関しては、“都市防災の基本的方針”で、「身近な生活環境の安全性の確保に努めます」としており、狭い道路の改善や災害に強いまちづくりを進めます。</p>	無
19	<p>集会所活用による高齢者の集う場の構築          高齢者になっても元気に過ごすためには、健康と並んで人との交流や活動が大切とされています。徒歩圏内（徒歩で10分以内）に活動できる住民が集うことができる場所があることが、高齢者にとって魅力ある街になると共に、高齢者の健康寿命の増進につながると考えます。          そこで、集会所と宇治市長寿いきがい課が行っている一般介護予防教室をZOOM等のオンラインでつなぎ、住民の徒歩圏内にある集会所に、集い交流・活動できる仕組みをつくることを提案します。オンラインでつなぐことで、一般介護予防教室は宇治市全域で人件費をかけずに展開することが可能です。具体的には集会所のWi-Fi化、タブレットの配布、プロジェクターの設置等、初期投資は必要と考えますが、人件費に比べると長期的に十分回収が可能と考えます。          運用当初は、IT活用について高齢者への説明や支援は必要だと思いますが、前期高齢者は日常的にスマホを活用している現状があり、初期投資を行えば、運用は可能と考えます。</p>	<p>都市計画マスタープランは、都市計画に関する基本的な方針を示すものです。          ご意見の高齢者の集う場の構築に関して、都市計画マスタープランの土地利用の基本的方針（p50）において、すべての人が安全・安心して快適な暮らしができる住環境の形成や、すべての人が集い、にぎわいと交流を生み出す快適な都市空間の創出など、土地の使い方について総合的かつ一体的に計画することで都市の発展を計画的に誘導し、これらの活動が安全で快適かつ機能的に行えるよう努めます。          頂いたご意見を今後のまちづくりの参考とさせていただくため、関係部署と情報共有を図ります。</p>	無
20	<p>「他の公共施設の基本的方針（水道・学校など）」について。いのちの水を守る水道事業はとても公共性の高いものです。国から都道府県に対して水道広域化推進が要請されていますが、府の言いなりにならないで下さい。自己水は水の浄化コストや配水管の長さ等メリットもあり、毎日飲んでいる西小倉浄水場の水は美味しいし災害時のリスク分散にも役立っています。将来にわたる持続可能な水道事業の中に自己水の確保も入れて下さい。</p>	<p>本市の水道事業についてのご意見ですので、今後の参考とさせていただきますため、関係部署と情報共有を図ります。</p>	無
21	<p>学校施設について「地域とともにある学校づくりに努めます」は、“努めます”ではなく、“学校づくりをします”に変えて下さい。西小倉地域では小中一貫校により3つの小学校区が1つになり、コミュニティ再編でも大きな問題です。学校づくりが地域への愛着を育む王道にして下さい。</p>	<p>本市の学校教育についてのご意見ですので、今後の参考とさせていただきますため、関係部署と情報共有を図ります。</p>	無



22	<p>エリアごとにゾーニングすることをご提案します。宇治の顔である宇治エリアにおいては景観規制を強化し、今以上に洗練された観光地作り、かつ観光客目線に立ち、何度も訪れたい街づくりをしてください。近鉄沿線と六地蔵は高さ制限を大幅に緩和し、100m 超えの高層マンションを建築できるようにすべきです。宇治市は可住地面積が小さいので、建物を高くしなければ人を多く住ますことは出来ないので、駅付近にはマンションを建築し、多くの人に住んでもらった方がいいのでは。</p>	<p>エリアごとのゾーニングに関しては、地域の特色を活かし、都市機能の集積・役割分担を行いつつ、地域を育てていくための中心的な役割を担う「拠点」を配置（p42）し、道路網により「拠点」がお互いに連携し合い、まち全体がバランスのとれた都市機能を持つ必要があると考えております。また、地域別構想（p63以降）では、市民の生活圏に合わせた7つの地域に分割し、今後のまちづくりに必要な方策を盛り込んだ地域ビジョンを描いています。</p> <p>また、建物の高さに関しては、土地利用の基本方針（p48）では、ご提案のとおり駅周辺の商業・業務地から郊外に向かい落ち着きのある低層住宅地へ誘導しており、建物の高さ規制も同様に低層住宅地ほど厳しくしております。</p>	無
23	<p>宇治市に何度もお伝えしていますが、京都市が財政破綻危機である今が最大のチャンスです。更に言うとコロナ終焉後の京都は多くの訪日外国人が大挙し、不動産価格が高騰し、今以上に中流階級が住めなくなります。その住めなくなった中流階級の受け皿に宇治市がなるべきです。駅付近に人を集めると人口密度が高くなり、駅付近に様々な業態のお店ができるように、投資が投資を呼ぶ環境を作り上げることができます。それは結果的に多くの住民に利便性の向上をもたらすでしょう。さらにいえば宇治市に高層マンションができると一定数のプチ富裕層が住み着き、住民税の増加に繋がり、市の財政が潤沢になるでしょう。</p>		無

## 交通網について

24	<p>交通問題について提言申し上げます。</p> <p>新名神高速道路拡充に伴い、宇治市民が関東・中京・伊勢方面へのアクセスとして、京滋バイパス経由より宇治田原IC経由が増加するものを思われます。その時問題となるのは、宇治市役所～太陽が丘～宇治田原の渋滞です。現在でも、文化センター・太陽が丘の利用者が重複した際は渋滞です。コロナ渦が収まり通常の利用に戻った際、更にアイススケートの本格稼働・新名神高速の開通を考えれば絶対対策が必要です。もし文化センター・スケート場・太陽が丘で素晴らしい時間を過ごした後の大渋滞に出くわしたら、楽しさが怒りに変わることになり残念です。</p> <p>そこで別紙地図に基づき提言申し上げます。</p> <p>この案は、「A点に車が集中することを避ける」ことです。即ちB点とC点の間にバイパスを作っていただければと考えます。</p> <p>B点・C点間は直線距離は約200メートル程ですが、高低差等の問題もあり簡単ではないと思われま。</p> <p>これにより、文化センター・アイススケート場・宇治田原方面（新名神利用者も含め）の車はA点を避け、BC間の利用者がかなり多くなると思われます。</p> <p>（太陽が丘利用者の、城陽出口の利用をもっと促進することも必要） （更にC地点～B地点～文化センター～縣神社迄バイパスが伸びればもっと！）</p> <p>【別紙地図上のA地点からC地点は下記の位置 A地点：カムループス通りと宇治白川線の信号 B地点：宇治白川線の文化センター西側の信号 C地点：カムループス通りと琵琶台2丁目のバス停東側の信号】</p>	<p>新名神高速道路の開通に伴う、道路の幹線網の具体的なご提案を頂きありがとうございました。</p> <p>都市計画マスタープランにおいては、“将来的な都市の骨格”の「バランスのとれた道路の幹線網を確立します」(p36)の中で、新名神高速道路を「新たな幹線網」と位置づけております。また、周辺市町との一体性や相互効果など南部地域の将来まちづくりを強化する道路として、「構想路線」を位置づけ、新名神高速道路の経済効果を宇治市に取り込むことや、宇治市の道路網のウイークポイントである東西軸の強化を見越した構想路線を明確化したしました。</p> <p>また、ご意見の市役所周辺の渋滞に関しては、宇治地域の交通の方針(2)道路 幹線道路(p89)「市街地にアクセスする幹線道路網の整備」にお示ししております通り、宇治橋を中心に自動車交通が集中する傾向が強く、特に朝夕の渋滞がみられる主要地方道宇治淀線や市道宇治白川線および宇治榎島線などの幹線道路とともに幹線道路網の整備が必要です。また、新名神高速道路開通後の交通状況を見極め、交通の円滑化をはじめ交通容量の拡大や通過交通の市街地流入の抑制などによる交通分散・円滑化の検討を進めていきます。</p>	無
----	---	--	---

25	<p>日本全国で高齢化率が上昇し、2021年現在の全人口の約30%を高齢者が占め、さらに増加することを考えると、高齢者が住みやすい街づくりは宇治市の人口減少(市税減少・経済の不活性化)並びに人口を維持するうえで、重要な施策になると考えますので、「高齢者世代」に魅力ある街づくりを推進することを目的に以下の項目について提案します。キーワードは「徒歩圏内(徒歩10分以内)で生活できる街づくり」です。具体的には徒歩圏内に必要な買い物・病院・集える場所のインフラを整えることです。</p> <p>民間バス活用による高齢者の移動サポート体制の構築</p> <p>高齢者になると徒歩圏内(徒歩で10分以内)に病院や公共施設(役所等)がないと、高齢者にとって住みにくい街となります。ただ、病院や公共施設(役所等)を高齢者の徒歩圏内に新たに造ることは現実的ではありません。そこで、民間が運営しているスクールバス・スポーツジムのバス・徳洲会等の大病院の送迎バスを誰もが移動目的に利用できる仕組み、「宇治バスネットワーク」を構築し、高齢者の移動をサポートする仕組みを提案します。</p> <p>実現には、現状の民間のスクールバス・スポーツジムのバス・教習所のバス・徳洲会等の大病院の送迎バスの運行ルート・バス停等の活用、さらに宇治市主導で、宇治市全体に「宇治市バスネットワーク」が張り巡らされるように運行ルート・バス停を効果的に増やす取り組みが必要になると考えます。</p>	<p>ご提案の更なる公共交通の利便性向上は、定住人口につながるなど重要な視点ではありますが、人口減少・少子高齢社会が進行する中、まずは現在の公共交通をはじめとしてまちの資源を共有することで市民が享受できる都市のサービスの質を確保・向上させていくことから取り組まなければならないと考えております。</p> <p>都市計画マスタープランでは、“交通の基本的方針”の(1)公共交通(p52)では、市民生活を支える公共交通体系をめざすとしており、高齢化の進行に伴い移動が困難な高齢者が増加するなど社会的ニーズの変化に応じた新たな移動ニーズへの対応や、まちづくりと一体となった公共交通ネットワークの構築を進めるとしてあります。</p> <p>頂いたご意見は今後の参考とさせていただきます。</p>	無
26	<p>利便性は慢性的な交通渋滞、東西の交通対策(良いex.城陽市)</p>	<p>ご意見の交通渋滞や交通対策に関しては、“交通の基本的方針”の(2)道路(p54)で、「それぞれの道路の役割に応じた整備を段階的に進めます」としており、朝夕の交通渋滞の緩和や居住環境の改善及び産業等都市活動の活性化・円滑化、まちの拠点間の連携強化などのまちづくりへの影響を見極め、整備を段階的に進めます。</p>	無

地域別構想について			
27	<p>山間地域の現状 交通について「地域内には公共交通がなく」と記述されている。公共交通のない地域に対して市としてしっかりした方針を持ってほしい。「主体的な取組みに対しては支援を行います」ではなく、市として市が責任を持って進めてほしい。地域も高齢化が進んでいく現状、運転手も確保するのがむずかしくなっていくことが予想されます。市として(市が主体となり)持続可能な方針を立てられることを希望します。交通が便利になれば住民も増えると思う。スクールバスの活用やデマンド型タクシーなど要求として出されているが何十年も全く進んでいない。交通にかかる予算をしっかり取り組んでいただきたい。</p>	<p>マスタープランは都市計画に関する基本的な方向性を示したもので、詳細な課題まで掲載できない部分がありますが、地域の課題も関連計画の中で検討を進めます。</p> <p>移動手段の課題については、マスタープランに関連する計画として、宇治市公共交通体系基本計画を策定して取り組んでいるところです。</p> <p>宇治市公共交通体系基本計画では、鉄道、路線バス、タクシーをはじめとする公共交通を「不特定多数の誰もが対価を支払うことで利用できる移動手段」と位置づけており、鉄道・路線バスの運行していない地域においても、地域に必要な移動手段を確保するため支援策を検討するとしています。地域に応じた移動手段への支援としては、地域の方には、「地域ニーズ集約と積極的な提案・協力」、行政は「制度の策定と運行への支援」といったそれぞれの役割分担のもと今後の取り組みを進めてまいりたいと考えております。</p>	無
28	<p>地域が運営主体、宇治市が支援者となって有償運送の事業が始まったが、「市が主体となって・・・」とする請願が全会一致で採択されたことを明記し、先の展望をもって住民の足の確保に努めてほしい。質疑応答の中に「バスに限らず新たなニーズに対応する公共交通を検討している」とあった(デマンドタクシーなどのこと?)炭山地域にも必要な公共交通として検討してほしい。スクールバスの活用について要望しているが話が全く進んでいない。早く具体的な話をして、一歩でも進めてほしい。宇治市の交通にかかる予算は大変少ないときいている。適切な予算を組んでほしい。</p>		無
29	<p>地域づくりのテーマの一つ「安心して住むことのできる生活環境の充実」について、第1に交通問題。既存の公共交通が全くないので。他の地域のそれとは事情が全く違います。補助金は0の時よりはありがたいのですが、それだけでは困るのです。運転して下さってる方も高齢になり持続は難しく不安です。行政の支援ではなく主体でやって下さい。安心して住むための基本です。スクールバスの利用の件も前に進めてください。</p>		無

30	山間地域の現状に「地域内に公共交通機関はなく」と記述されているのに、主な課題には「既存公共交通を基盤とした」とあり矛盾している。	ご指摘の点について、主な課題（p120）に記載の“既存公共交通”は、地域に必要な移動手段を確保するためには、市域全体として、鉄道やバスなどの既存公共交通を今後も存続させることが重要であり、市域全体の既存交通を基盤とした新たな移動ニーズへの対応が必要と考えております。	無
31	(1)公共交通の方針には「主体的な取組みに対して支援を行います」としかない。取組みがない地域にはどんな方針でのぞむのか示してほしい。	炭山地域では実際に支援事業をされているため、その取組みに対して「支援する」としてはいますが、全体の交通の方針については、全体構想（p52）に記載のとおり、地域の実情や移動ニーズの変化に応じた新たな移動ニーズへの対応や、まちづくりと一体になった公共交通ネットワークの構築を進めます。	無
32	「安心して住むことのできる生活環境の充実」について、西川興業横の道を危険なく離合できるようにして下さい。西川さんも土地持主も許可してくださっているのになぜできないのですか。「林道としての条件は満たしている」と言われていますが、地元住民の大切な生活道路なのです。いつも不安な思いで通行する苦痛を、気持ちを分かって下さい。事故が起きてからでは遅いです。10年前の豪雨災害の時にこの道が先に通行できました。この先何かあった時今の離合困難では十分機能しません。	都市計画マスタープランは、都市計画に関する基本的な方針を示すものです。 林道の整備についてのご意見は、今後の参考とさせていただくため、関係部署と情報共有を図ります。	無
33	「安心して住むことのできる生活環境の充実」について、危険木の問題です。近い過去に通行中の車に倒木があり車が大破しました。その時は不幸中の幸いでけがはなかったのですが、次に起こった時は命にかかわる事故、大惨事にもなりかねません。真剣に考え対応して下さい。以上他にも言いたい事案はありますが、今迄のような気持ちの通わない回答ではなく、心して取り組んで良い返事して下さい。	危険木は、本市も地権者に連絡して伐採してもらうように働きかけていますが、費用の問題などにより、すぐに対応されていないケースもあります。 ご意見を今後の参考とさせていただくため、関係部署と情報共有を図ります。	無
34	山間地域「2地域の現状」の防災の欄に、京都府南部豪雨災害のことが記述されました。その中で「土砂災害」という用語が使われています。宇治市HPにある文書では「府道二尾木幡線の土石流」の用語があり、その写真も掲載されています。用語としては「土砂災害」より「土石流」という同じ記述にするのがいいと思います。	土砂災害と土石流の用語の違いについては、一般的に土砂災害は土石流災害、地すべり災害、がけ崩れ災害を包含する表現です。一般的な用語として分かりやすいように、宇治市暮らしの便利帳（p45）と表現を合わせております。 都市計画マスタープランは、都市計画に関する基本的な方針を示すものです。	無
35	上記の土石流の原因については何も書かれていません。繰り返すことがないよう、まちづくりの観点から原因と今後の課題について言及すべきです。	ご意見は今後の参考とさせていただくため、関係部署と情報共有を図ります。	無

36	まちづくり活動の交流の場として「炭山工芸の里」とありますが、そのような拠点とはなっていないと思います。「南部集会所」がありますが、住民の高齢化もあり徒歩では利用しにくい場所にあります。もう少し利便性を考えて頂けたらと思います。	山間地域の森林地・緑地の方針（p121）の「レクリエーション資源の活用と自然環境を損なわない範囲での整備・活用」と、まちづくり活動の方針（p123）の「里山の保全活動や交流の活性化の推進」の2箇所に記載の“炭山工芸の里”について様々なご意見を頂きました。	有
37	まちづくり活動の方針は「炭山工芸の里を交流の場」とありますが、実際には交流できる場所がありません。方針にないことが課題と記入してほしい。そして場所が必要なので、あつまり場所確保を支援してほしい。	ご意見の中にもありますように、炭山は陶芸だけでなく、ガラス工房や家具工房、木工芸など様々な工芸等の地域資源のある地域であり、地域の活性化のためには、それらの資源を活かしたまちづくりが重要と考えております。そのため、素案の中では、現計画の策定時のワークショップでマスタープラン独自の表現として記載していた“炭山工芸の里”という名称を継承し記載しておりました。	有
38	団体名称（炭山工芸の里）の間違いの用語を削除し、その前後の記述を再整理してください。	一方で、“アクトパル宇治などの公共施設と炭山工芸の里をその交流の場としてまちづくりを進めます。”と記載していることで、“炭山工芸の里”をアクトパル宇治と同じような施設が存在すると誤解を与える可能性があるため、下記のとおり文言を修正しました。	有
39	現行のマスタープランに当初の団体名称（場所を含む）が記述されたのは、まちづくり方針としてこの名称の団体と共に役割（＝まちづくり活動や地域連携等の拠点）を果たそうとされたのだと推察します。この重要性を再確認し、まちづくりにおける拠点等の考え方の整理と、あらたなまちづくりの具体的整備の方針を示してください。架空の名称のままでは、「何もしません」「出来ません」と実効性がないことになってしまいます。	土地利用の方針（p121） 3）森林地・緑地等 レクリエーション資源の活用と自然環境を損なわない範囲での整備・活用 「市民の散策やレクリエーションの場、そして地域の活性化を図るため、アクトパル宇治、東海自然歩道などの観光・レクリエーション資源や炭山の工芸のいとなみを活用した地域間交流の促進を進めます。」	有
40	炭山に移り住んで50年余りたちました。ずっと焼物の仕事に携わっています。最初は10軒の工房でしたが、今では3倍以上に増えています。近年はガラス工房や家具工房、木工芸家等もふえています。工芸の里として若い人達も定着しつつあります。しかし、若い人達が安心して住み続けられる環境を整えていかないと小学校の存続もむずかしくなります。子供、若者、老人、すべての世代が暮らしやすい環境を整えてほしいです。天ヶ瀬ダムから車で約10分、御蔵山（木幡）からも15分位の地ですが、宇治市の住民の方で、炭山に一度も行った事が無いという人も多くおられます。気軽に行ける様に標識や道路の整備等を進めてほしいです。地域の人に親しまれる自然ゆたかな里になってほしい。そして工芸の里として発展して行ける様、行政の協力をお願いしたいです。	まちづくり活動の方針（p123） 里山の保全活動や交流の活性化の推進 「本地域一帯に広がる市民の貴重な財産であり地域の誇りである自然のみどりを、自然環境の保全を実践していく場として、農業の振興、里山の保全、復元、活用に取り組みます。また、地域内のみならず都市部との交流の活性化を図るため、アクトパル宇治などの公共施設をその交流の場として活用するとともに、炭山の工芸のいとなみなどを活かしたまちづくりを進めます。」	有

41	<p>防災対策、過疎化への対策等、炭山独自のむずかしさがあるが、書かれている対策は抽象的で何をするのかわからない部分が多い。細かいことは書けないとしても、せめて、まとめをしたときに、その対策ができたのか出来なかったのかわかるような対策を書いて欲しい。</p>	<p>本計画は、本市の都市計画に関する基本的な方針を示すものであり、都市計画に関連する各分野の個別計画が実施計画にあたります。目指す将来都市構造の実現に向け個別・関連計画と連携を図るとともに、関係部局や市民・事業者・行政の協働により推進してまいります。</p>	無
42	<p>地域活性化のためにも、笠取第二小学校の存続を強く望みます。</p>	<p>まちづくりオープンハウスや意見交換会においても、小学校は地域の中核的な役割を果たしており、地域活性化のためにも、小学校の存続をしてほしいと、同様のご意見を頂いたところです。</p>	無
43	<p>小学校に2人の子を通わせている保護者です。          小学校の児童が減少しているため昨年より地域・学校・保護者が連携して対策を話し合い「親子留学」という取り組みをはじめましたが、その中で出た課題として、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・希望する親子が住まう空家がない</li> <li>・空家がないため希望者がきても断らざるをえない</li> <li>・地域や学校だけの広報では弱く認知が進まない</li> </ul> <p>などがあります。</p> <p>また仮に空家が出たとしても地域に交通の便がないこともマイナスに作用します。現地域の子もそうですが、今の子は習い事に通うことも多く、親はその都度送迎が必要となります。小学校はやはり地域の中核的な役割を果たしていて、これからも地域のためにも存続してほしいです。そのために1つでも2つでも行政に支援していただけないでしょうか。よろしくお願いいたします。</p>	<p>そうした地域の意見を踏まえ、地域づくりの主な課題（p120）に「地域内の児童数が少なく、地域交流の中核となる小学校の存続や、教育環境の充実が求められています。」と文言を追加したところです。</p> <p>本市の学校教育についてのご意見ですので、今後の参考とさせていただきますため、関係部署と情報共有を図ります。</p>	無

その他			
44	<p>宇治市の人口減少（市税減少・経済の不活性化）に対して、子育て世代を家族単位で宇治市に流入させる、または留まらせることで人口減少（市税減少・経済の不活性化）に歯止めをかけることを提案します。そのためには、以下の項目に充実をはかり子育て世代、なかでも多くの子育て世代が共働きである現状を踏まえ、「共働きの子育て世代」に魅力ある街づくりを推進する必要があると考えます。</p> <p>早急な中学校給食の実現 共働きの子育て世代の朝は多忙であり、子どものお弁当づくりの負担が軽減されるのは魅力的です。他市で既の実現している中学校給食がない宇治市は、魅力がないと判断されてしまいます。早急に実現させる必要があると考えます。</p>	<p>ご意見の中学校給食に関しましては、宇治市教育委員会としても中学校での給食実施をめざしているところであり、令和8年度早期の実施ができるよう取り組みを進めてまいります。</p>	無
45	<p>小学校育成学級と民間教育事業の連携 共働き世代は、平日に習い事や子供に教育する時間がとれない傾向にあります。</p> <p>そのような中、育成事業とスポーツクラブや習い事教室等で連携することで時間の有効活用、さらに子供の教育・成長につながり、共働きの子育て世代に歓迎される取組みになると考えます。現在、一部小学校では取り組まれています。限定されており宇治市の全小学校への普及活動が必要だと考えます。</p>	<p>平日の放課後の過ごし方として、育成学級の運営をしています。特定の曜日は、習い事へ行く児童や特定の時間まで育成学級を利用し、その後自宅から習い事に行く児童もあり、全ての育成学級で柔軟な対応を行っているところです。</p> <p>民間の教育事業との連携については、どこまで実施すべきか研究してまいります。</p> <p>ご意見は今後の参考とさせていただくため、関係部署と情報共有を図ります。</p>	無
46	<p>小学校育成学級への弁当配食開始 共働き子育て世帯が増え、育成学級を利用する子供は年々増えていきます。育成学級を利用する親から良く聞く声として、育成学級のお弁当問題があります。学校給食がない期間、例えば夏休み・冬休み・春休み等は長時間の間、育成学級では親がお弁当をつくる必要があります。コンビニで購入したお弁当を持ち込むことは可能ですが、早朝からお弁当を買いに行く親の負担を考えると現実的ではありません。前日からパン等の軽食を購入し子供に持たせる方法もありますが、育ち盛りの子供の栄養を考えるとお勧めできません。希望者には育成学級で配食サービス（料金は保護者負担）が受けられる体制づくりの検討を提案します。共働き子育て世代の親に共感されると考えます。</p>	<p>育成学級における昼食に関しましては、土曜日や長期休暇にお弁当を持参していただいています。</p> <p>お弁当持参が、保護者の負担につながっていることは認識しております。</p> <p>一方で、配食サービス等の体制を確保するためには、食数の確保、配食業者の選定等の課題があります。</p> <p>ご意見は今後の参考とさせていただくため、関係部署と情報共有を図ります。</p>	無



47	<p>小中学校の保護者学校役員の廃止</p> <p>現在の義務教育の学校における保護者役員制度は、共働きの親を想定していないため、役員としての活動の為に仕事を休まなければならない現状があります。</p> <p>ひとり親世帯の場合はさらに厳しい負担となっているのが現状です。ほとんどの子育て世代の親は、くじ引きで当たったので、やむを得なく役員の責務を果たしていますが、本音は負担であり、役員にはなりたくないと考えています。育友会の廃止、もしくは希望者のみが役員を務めるボランティア組織にすれば、今の時代に合った画期的な改革であり、共働き世代には大きな共感が得られると考えます。実際に今年度、コロナ禍で育友会活動は活動が縮小を余儀なくされていますが、子供・保護者ともに誰も困っていないのが現状です。</p>	<p>PTAとは、保護者と教職員がお互いを高め合い、子どもたちの健全育成を支援する社会教育関係団体です。PTAは、学校行事への支援や親と子、教師との交流・親睦事業、入学・卒業時などの記念品授与、登下校時の登校班の編成や危険個所での見守り等様々な活動を担っていただいております。</p> <p>一方、共働き家庭の増加や核家族化といった家庭の多様化などを背景にPTA活動について参加が難しい、役員に当たりたくない、といった価値観の多様化による様々な考え方が出てきており、時代の変化に応じたPTA活動の見直しを図っていくことも大切であり、子どもたちのためにこういった活動をしているのか、役員の選出方法や会議の設定回数・時間などをしっかり検討し、透明性が高く、負担感の少ない活動を目指していくことが大切です。</p> <p>宇治市では、今後「地域とともにある学校」「学校を核とした地域づくり」を目指してコミュニティ・スクールを推進してまいりますので、家庭・学校・地域社会を結ぶ要として、PTAと学校が子どもたちのために目標を共有し、連携・協働していくことがますます重要になっていきます。</p> <p>できる人が、できる事を、できる時に、子どもたちのために、それぞれの地域や学校の状況に応じた活動を行っていただきたいと思います。</p>	無
----	---	--	---

48	<p>団塊の世代高齢者による助け合い制度の構築 仕事を定年退職された団塊の世代の高齢者が生き生き活動できる場所があることが、高齢者にとって魅力ある街となると考えます。具体的には有償ボランティア制度の整備です。</p> <p>介護や医療費が増大するなか補完する役割を果たすとともに、団塊世代の高齢者のやりがい、また健康寿命の増進にもつながると考えます。また、有償ボランティアを依頼する高齢者にとっても、徒歩圏内で生活を継続するにあたり経済的にも安心して支援を受けることができるメリットがあります。</p> <p>自主ボランティア組織をつくる試みや検討が行われていますが、人の良心だけでは全市的に住民による助け合い制度が確立することは難しいと考えます。</p> <p>有償ボランティア制度は、年金にプラスで収入を得ながら社会と繋がれる制度であり、普及する可能性が高まると考えます。</p> <p>現在、総合事業の住民主体型のサービスがありますが、総合事業の枠組みのなかで行われているので自由度が低いため、全市的な普及は難しいと考えます。</p>	<p>都市計画マスタープランは、都市計画に関する基本的な方針を示すものです。</p> <p>目指す将来都市構造の実現に向け個別・関連計画と連携を図るとともに、関係部局や多様な主体との協働により推進してまいります。</p>	無
49	<p>宇治市の過去の「マスタープラン」を拝見すると人口を増やすことを諦めて、交流人口を増やす方向で動いています。日本全体の人口が減少しているので理解できますが、土地の用途を現代に合わせて変更せずに早々と諦めるのは早いのでは。「交流人口を増加させる」と仰っていますが、宇治エリアでの新規イベントを考えず、宇治橋商店街、平等院、宇治川近辺あたりのPRをしているだけでは。観光都市宇治を掲げてる割に京都や奈良みたく何度も来たいと思わせるような観光地作りがされていません。リピーター客を作るための努力をすべきです。何より奈良・京都観光のついでに来てもらっているという認識がまるでありません。”観光客の視点に立った”観光地作りができていないように思えます。</p>	<p>マスタープランでは、基本目標その ①の「地域と地域が相互に連携し支え合う都市づくり」(p33)にも記載しておりますとおり、都市機能の充実した地域から自然が豊かな地域までそれぞれの個性を活かした上で、相互に補完し合いながら、今あるネットワークや資源を有効に共有し、文化・歴史・風土などの地域特性を踏まえた都市づくりをめざします。</p> <p>また、目指す将来都市構造の実現に向け個別・関連計画と連携を図るとともに、関係部局や多様な主体との協働により推進してまいります。</p>	無
50	<p>宇治は京都に住む貴族の別荘地として栄えた歴史があるのにも拘らず、それが生かされていません。原点に戻り、宇治エリアを別荘地と栄えさせるのもありでしょう。貴族の別荘地として栄えいたことを踏まえて外資系ラグジュアリーホテル誘致をご提案いたします。</p>		無

51	<p>計画には現状分析が必要です</p> <p>1. 宇治市の社会的土台となる事柄の分析を提示してください。 例)食料自給率、失業率、所得から見た格差率、社会的や男女平等率、上下水道の普及率、福祉政策、教育レベル、住居の人口比率、エネルギー自給率、化学物質汚染への対応、生物多様性の喪失率、気候変動対策 等</p> <p>2. 経済的分析からの構想への分配の提示</p> <p>3. 将来の自動車運転を見据えたレーンを作る、源氏物語ミュージアムから茶づなの自動運転レーン 例)宇治パスポートを作成、平等院、源氏物語ミュージアム、茶づな、萬福寺、三室戸寺、任天堂ミュージアムの入場券やバス乗車券、みやげ付きのパスポート。 新しい時代の風を吹き込めるアイデアがないと若い人材の流出を止める事は難しいと思いました。経営戦略を観光に依存したらコロナでリスクが大きいと判明。自給率をあげる地道な努力が大切。 マネージメントがうまくいかない原因となるゴミ問題を忘れないで計画を立ててください。</p>	<p>都市計画マスタープランは、都市計画に関する基本的な方針を示すものです。</p> <p>本計画は、現時点で考えられる最善の計画として策定しましたが、今後の社会経済情勢の変化により、新たな課題や市民ニーズへの対応が必要となることも予想されます。</p> <p>今後、そのような社会情勢の変化に対応できるように、本市の最上位計画である総合計画の総括・検証の時期と合わせて、随時見直しや定期見直しを行うなど、変化に適応できる都市計画プロセスを進めていきます。</p> <p>ご提案頂いた内容については、今後の参考とさせていただくため、関係部署と情報共有を図ります。</p>	無
----	--	---	---